



プリマハムグループ

社会・環境報告書 2015

お客さまに必要とされる
「なくてはならない会社」を目指して

おいしさ、ふれあい。

プリマハムは
お客さまとの絆を大切に、
食のおいしさ、人とのふれあいを通じて
楽しく豊かな食の未来を
創造していきます



会社概要 (2015年3月末現在)

社名	プリマハム株式会社 Prima Meat Packers, Ltd.	創業	1931年9月1日
所在地	〒140-8529 東京都品川区東品川4-12-2 品川シーサイドウエストタワー	資本金	79億8百万円(2015年6月末現在)
TEL	03-6386-1800(代表)	決算期	3月31日
代表者	代表取締役社長 松井 鉄也	従業員数(連結)	13,419名(臨時従業員を含む)
事業内容	ハム・ソーセージ、食肉および 加工食品の製造販売	事業所	営業拠点 …………… 6支店 26営業所 生産拠点 …………… 4工場
		グループ会社	34社 連結子会社 …………… 29社 持分法適用関連会社 …… 5社

報告書について

報告期間	2014年度(2014年4月~2015年3月)を中心としていますが、 2014年度以前・以降の活動についても一部掲載しています。
対象範囲	プリマハム株式会社およびプリマハムグループ会社(計34社)の報告を対象としています。 文中でプリマグループを対象としていない場合は、個々に対象範囲を記載しています。
発行時期	2015年8月発行
次回発行予定時期	2016年8月発行
参照ガイドライン	「ISO 26000 社会的責任に関する手引き」(国際標準化機構) 「環境報告ガイドライン(2012年版)」(環境省) 「サステナビリティ・リポーティング・ガイドラインVer.3.1」(Global Reporting Initiative)
お問い合わせ先	〒140-8529 東京都品川区東品川4-12-2 品川シーサイドウエストタワー プリマハム(株) 環境管理部 TEL : 03-6386-1832 FAX : 03-5462-1716 http://www.primaham.co.jp/

編集にあたって

プリマハムグループは、2006年から「社会・環境報告書」の発行を開始し、当社グループの事業と社会的責任へのこだわりや取り組みの現況について報告しています。本2015年も、従来と同様にお客さまや株主様、調達先様、従業員、地域社会というステークホルダー別に章立てをするとともに、環境保全に関する活動を報告しています。また、新たに始まった中期経営計画を進めるうえで、どのような成長戦略を描き、どのようにCSRを重視した経営を実践していくかなどを紹介しています。加えて、パソコン画面でも見やすいようにA4横で編集しています。なお、今年度からはWeb版の「社会・環境報告書」のほかに、当社グループの最新の取り組みをわかりやすくまとめた冊子「おいしさ、ふれあいBOOK」を発行しています。

CONTENTS

社会・環境報告書
2015



社長メッセージ 中長期的な視点のもと 持続的な成長を 目指しています

代表取締役社長 松井 鉄也

プリマハムの成長戦略

● マネジメント

●お客さまとともに

●株主様とともに

●調達先様とともに

●従業員とともに

●地域社会とともに

●環境との共生

●環境パフォーマンスデータ

グループ概要





プリマハム株式会社 代表取締役社長

松井 鉄也

中長期的な視点のもと 持続的な成長を目指しています

おかげさまでお客さまからの 認知度や商品に対する ご支持が増えています

この一年を振り返ってみると、プリマハムグループに対するお客さまからの認知度や商品へのご支持が増え、おかげさまで業績も順調に推移しました。

特に、当社のメインブランド「香薫あらびきポークウインナー」や開封後に繰り返し密閉できる「フタピタ」は、他社にはない付加価値を持つ商品として高い評価をいただいています。こうした取り組みを強化していくために、2015年4月には多彩なスペシャリストが集まった「開発本部」内に「ものづくり部」を新設し、“今までにはないものづくり”を推進しています。まだ発表できる段階ではないものの、かなりおもしろいアイデアが出始めています。

また、農場から最終商品までのインテグレーション（一貫生産）の充実に向けて、昨年の「かみふらの工房」に続く

て、鹿児島に食肉処理加工センターを2015年4月に新設しました。このセンターは、当日処理した肉をその場でパックすることができるため、肉のおいしさや安全性が高まるのはもちろん、通常の商品よりも賞味期限が1週間ぐらい長くなります。これは量販店などのお客さまからもたいへん好評で、当社へのご支持につながっています。技術的にはかなりハードルが高かったのですが、「かみふらの工房」での経験や知見がいきましました。

さらなる成長を遂げるために 90億円の増資を実施しました

今年度から3年間、グループ全体で新工場建設をはじめとする400億円規模の設備投資を行う計画です。

2015年6月に90億円の増資を実施し、この増資のもと、計画の第一弾として茨城工場でソーセージの新プラントの建設に着手、2016年6月の稼働を目指します。これらの

背景には、工場自体の老朽化もあげられますが、それ以上にお客さまからの需要が伸び、そのご期待に応え続けるために生産能力を拡充しようという狙いがあります。

また、中長期的な成長戦略という意味では、海外市場の開拓も重要です。2014年度は、「プリマハムタイランド」と「プリマハムフーズタイランド」の2社を当社の100%子会社にしました。特にプリマハムタイランドは、ハム・ベーコン・ソーセージ分野において海外工場でJAS認定を取得した業界初の工場です。現在も日本向けのほかに、一部商品をタイ国内で販売し、好評を得ています。将来的にはタイでの販売を強化するとともに、シンガポールなどタイの周辺国への輸出も視野に入れていきます。そうなればバンコク市内のスーパーでも、シンガポールでも、日本でも、JASマークがついたプリマハムタイランドの商品がお目見えするはずです。

こうした施策を着実に実行することで、当社グループは持続的な成長を目指します。

さまざまなステークホルダーに必要とされる企業を目指します

「安全・安心」は、食品メーカーとして当然の責務であり、これまでも最重要なテーマとして取り組んできました。し

かし、2014年5月と2015年2月に当社グループの商品を自主回収させていただく事態になりました。いずれの場合もすみやかに対処しましたが、お客さま並びにお取引先様には、多大なご迷惑をお掛けしました。改めて深くお詫びを申し上げます。さらなる安全性の強化に向けて、金属検出機やX線検査装置による異物混入対策のほか、セキュリティカメラの増設、従業員教育の再徹底などを行っています。

また、各事業所の責任者に対しては、従業員に感謝し、大切にするのはもちろん、「安全・安心をいっしょにつくる」という風土をつくるのが大切だと伝えていきます。それは、全従業員が一丸となった取り組みこそが高品質な商品を生み出す根幹だと考えるからです。



これらの取り組みが、消費者の方や調達先様、販売先様、株主様など、さまざまなステークホルダーからの信頼につながると信じています。これからも、積極的にステークホルダーの皆さまと対話を図り、経営方針に掲げる「お客さまに必要とされる『なくてはならない会社』」を目指していきます。

経営理念

— プリマの原点 —

- 一、正直で基本に忠実
- 一、商品と品質はプリマの命
- 一、絶えざる革新でお客様に貢献

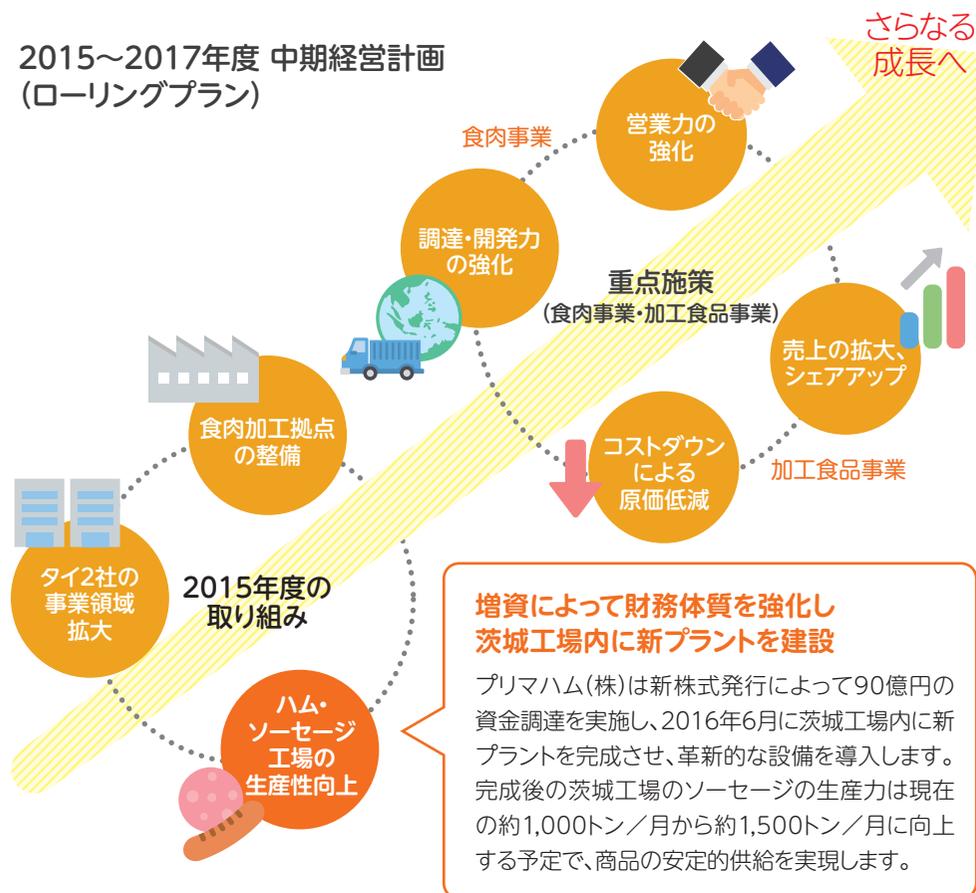
CSRの基本的な考え方

プリマハムグループのCSR(企業の社会的責任)とは、経営理念の実践そのものであると考え、持続可能な社会の実現に向け、事業活動を通じて社会と食文化に貢献していきます。

- 安全・安心でおいしい商品を安定的に提供し、健康で豊かな食の未来を創造していきます。
- 食品企業として培った技術や知見を活かして、地球環境問題をはじめとした社会的な課題に取り組めます。
- ステークホルダーと積極的にコミュニケーションを図り、地域や社会の期待・要請に応えていきます。

新たな成長への一歩を 踏み出すために財務体質の強化と 積極的な設備投資をしていきます

2015～2017年度 中期経営計画
(ローリングプラン)



企業が持続可能な成長を遂げるためにはCSRの推進が不可欠です。プリマハムグループでは、「2015～2017年度の中期経営計画(ローリングプラン)」のなかで、品質保証体制の強化継続、環境保全、人材育成、法令順守などのCSR活動をさらに進めていくことを方針として掲げています。

このほど、茨城工場の新プラント増設をはじめ生産力の強化を図るため、今後3年間で400億円の設備投資を行う計画を決定

しました。新しい生産設備を適切に運用・活用していくためには、高い生産性と低コスト化はもちろん、品質管理の強化や従業員の教育、環境対応など、CSR活動が重要な基盤となります。

今後も、プリマハムグループは「利益とCSRは車の両輪」という考えに基づき、持続的な成長と企業価値の向上を目指していきます。

将来を見据えた成長戦略を遂行し 企業価値のさらなる向上を実現します

今回の増資の背景には、数多くのお客さまが当社の商品をご支持くださり、ここ数年の間にシェアが急激に伸びてきたことがあげられます。この増資によって積極的な設備投資が実行でき、将来に向けた強固な事業基盤を構築することが可能となります。

これをもとに、今後は茨城工場の新プラント増設をはじめ、ハム・ソーセージ事業の拡充やコンビニエンスストア向け商品の生産力強化などに取り組みます。また、高齢者がお肉を好む傾向にあるなど、国内市場にはまだまだ成長の余地があることから、国産豚肉インテグレーションの強化なども進めていきます。さらに、海外市場での強みである伊藤忠商事(株)との連携を強化し、タイやシンガポールでの販売など、新たな市場へ挑戦していきます。

どうぞ、今後のプリマハムグループにご期待ください。

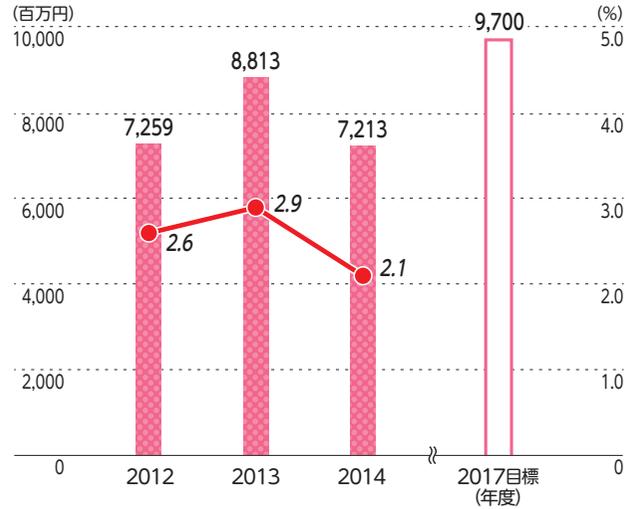


常務執行役員
新村 融一

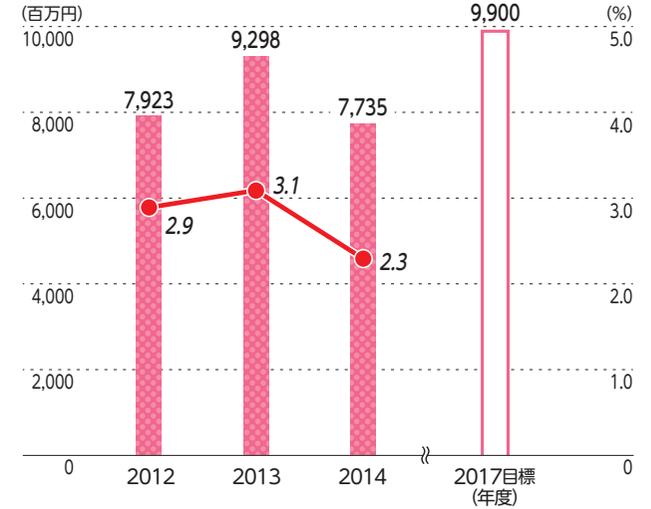
売上高



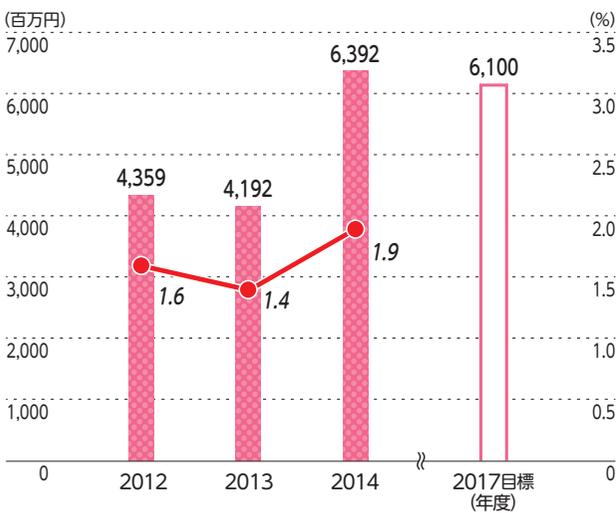
営業利益



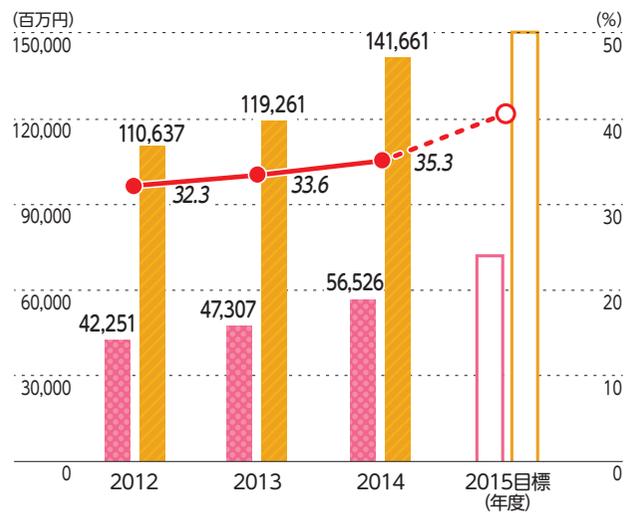
経常利益



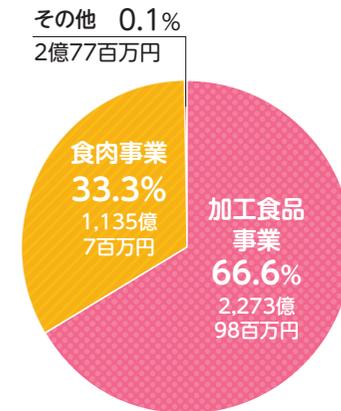
当期純利益



純資産 総資産



セグメント別売上構成比(2014年度)



社会から信頼される企業グループを目指して 経営の透明性を高めています

コーポレート・ガバナンス

社会から信頼され続けるために グループ全体のガバナンスを強化

プリマハムグループは、透明性の高い誠実な経営を遂行するのはもちろん、適時・適切な情報開示によって、お客さま、調達先様、株主様、従業員、地域社会の皆さまなど、すべてのステークホルダーへの説明責任を果たしていくことが最も重要であると考えています。

また、2014年に新たに策定した「中期経営計画(2015～2017年度)」では、基本方針のひとつに「コーポレート・ガバナンス強化とCSR推進による継続的な経営革新」を掲げています。この方針のもと、プリマハムグループが一体となった品質保証、コンプライアンス、人材育成、環境活動などを強化し、グループの企業価値の向上を図っていきます。

経営会議・専門委員会による 十分な審議でガバナンスを強化

プリマハム(株)は、「監査役会設置会社」の形態をとっています。

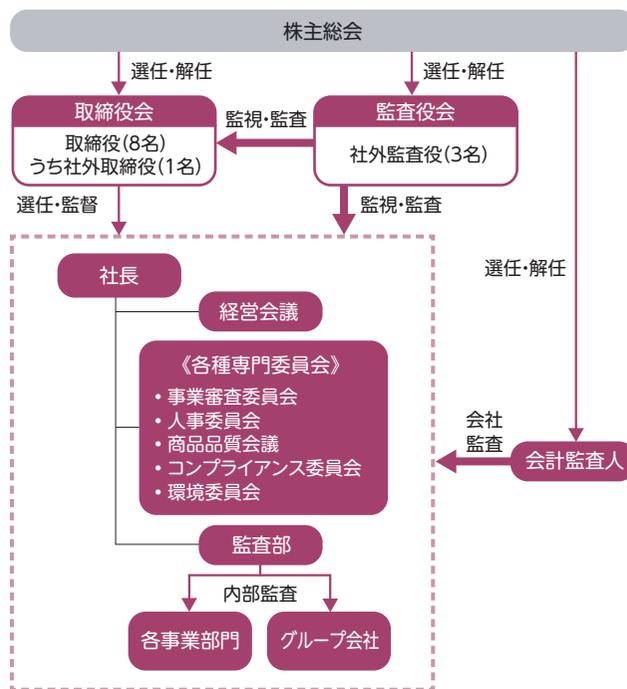
取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定し、業務執行状況を適正に監督しています。2014年度は19回開催し、おもに取締役会規定・取締役会運営規則に定められた案件や重要な案件について審議・決定しました。

執行役員は、取締役が的確かつ迅速に意思決定できる

よう経営会議に出席し、取締役とともに経営方針や重要事項について十分に審議しています。商品の品質や設備投資、人事政策やコンプライアンスなど個別課題については、各専門委員会において活発かつ慎重に審査しています。

監査役は、取締役の業務執行が適切であるか、その役割と責任が果たされているかを厳正に監査しています。監査役は経営会議や社内委員会にも出席しているほか、監査部、財務部などとも密接に連携しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



専門性や経験をもとに社外取締役・ 監査役が適切にアドバイス

2015年6月末現在、取締役8名のうち1名を社外取締役、監査役3名はすべて社外監査役です。社外取締役および社外監査役に対しては、経営判断や監査について社外の視点から適切かどうかの判断を仰ぐとともに、法的な解釈に基づいた助言や社会・市民の目線での改善提案など、専門分野の知見をいかしたアドバイスを受けています。また、アドバイスが適正かつ客観的な内容となるように、社外取締役、社外監査役は当社と重要な利害関係のない有識者から選任することとしています。

なお、2014年度の実務出席率は、社外取締役が89.5%、非常勤の社外監査役が94.7%、常勤の社外監査役が100%でした。

内部統制

業務品質を向上させる 「内部統制システム」を構築

プリマハムグループでは、内部統制を「健全な企業文化の醸成と企業価値を高めるための活動」と位置づけ、法令や倫理に則って適正に業務が実行されるための体制構築を基本方針としています。

● 内部監査の充実

プリマハム(株)の内部統制システムを整備・運用する専任組織「監査部」は、2013年度に監査手法を見直し、従来の営業拠点を中心とした「拠点監査」から、「本部監査」「支店・工場エリア監査」「拠点監査」の3つの形態としました。これによって監査対象を拡大したほか、それぞれの組織における課題を明確にするなど、内部監査の充実に取り組んでいます。

また、グループ会社に対しては定期的に訪問し、監査時の指摘事項に対する改善計画と改善結果報告を提出してもらうなど、内容の検証と次回の監査時において継続的な確認をしています。

VOICE

“経営目線”の監査を充実させていきます

昨年、日本内部監査協会認定の内部監査士の資格を取得し、内部監査の基礎知識から業務監査のポイント、内部監査報告書の作成・運用まで幅広く学びました。

監査部門に求められている役割は、事後チェックだけでなく、リスクの顕在化の未然防止や事業計画の妥当性の監査など経営目線での監査だと改めて認識しました。

今回、学んだことを業務にいかして内部監査を充実させたいと思います。



監査部
千葉 誠

● 監査要員のレベルアップと拡充

内部監査の対象範囲が拡大するなか、監査要員のレベルアップや中期的な要員計画が必要です。そこでプリマハム(株)では、OJTや外部研修への参加によって各部員のレベルアップを図っているほか、要員ローテーションなどにより組織の拡充に取り組んでいます。

● 監査法人と協議して

「財務報告にかかわる内部統制評価」に対応

金融商品取引法によって、上場会社には財務報告にかかわる内部統制の有効性を自ら評価し、その結果を外部に向けて報告する「財務報告にかかわる内部統制評価」が義務づけられています。プリマハムグループでも自ら整備・運用状況を評価するとともに、監査法人による監査を実施しています。

2014年度の内部統制は有効であると評価し、内部統制報告書を開示しており、監査法人からも「2015年3月31日現在、重大な不備はない」との評価をいただきました。

コンプライアンス

グループ全体で コンプライアンスを強化

プリマハムグループは、行動指針のなかで「法令・社内規定等のルールを厳格に順守する」ことを掲げており、「誇りと責任を持って職務を遂行する」「社会に貢献し、適正な利益の確保に努める」ことを明記しています。

また、そうしたコンプライアンスについての考え方を周知

徹底するため、小冊子「行動規範 実践の手引き」を作成し、適宜改訂を加えながら、全従業員に配布しています。

● コンプライアンス委員会や グループ会社コンプライアンス連絡協議会の開催

プリマハム(株)は、経営層を委員とする「コンプライアンス委員会」を定期的に開催しています。2014年度は、コンプライアンス違反事例や個人情報保護法、金融庁から発表された「コーポレートガバナンス・コード原案」についての情報を共有したほか、監査部における内部監査の総括などがありました。

また、グループ全体のコンプライアンス体制を維持・強化するために、国内・海外グループ会社にコンプライアンス担当役員を配置し、定期的に「グループ会社コンプライアンス連絡協議会」を開催しています。

● 各種研修を定期的に実施

コンプライアンス研修は法務部が、パワハラ・セクハラ防止研修は人事部などが全国各地の事業所を訪問し、製造部門や営業部門など現場の業務内容を踏まえて説明・指導しています。2014年度は、国内事業所・各支店、グループ会社の管理者を対象にコンプライアンスの基本について復習するとともに、社内コンプライアンス事案の傾向と概要、ハラスメント防止についても情報を共有しました。



コンプライアンス研修の様子

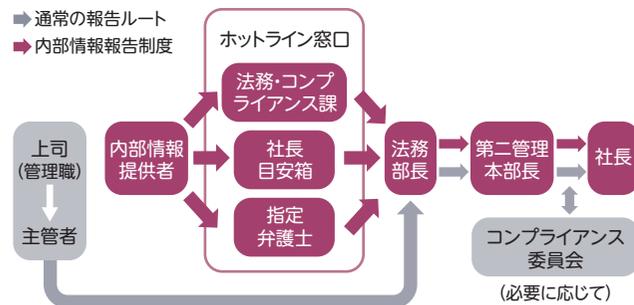
グループ全体で コンプライアンスを強化

プリマハムグループは、2006年から内部情報報告制度「ホットライン窓口」を運用しています。社外弁護士を含む複数の相談窓口を置き、法令・社内ルール違反などについての報告はもちろん、業務上の疑問・相談も受けつけています。また、電話・メール・投書それぞれの通報形態に対応しており、いつでも従業員が相談できる体制を整えています。

この窓口については、全従業員を対象にしたコンプライアンス研修でも紹介しているほか、ポスターの掲示やイントラネットに記載して周知しています。また、海外においても同様の仕組みを設け、各社で管理しています。

セクハラやパワハラの相談については、おもに「セクハラ／パワハラ相談窓口」が対応しています。特にセクハラの

ホットライン窓口



相談については、専用窓口にて女性担当者が電話やメールで直接相談・苦情を受ける体制をとっています。さらに、近年重要性が増しているメンタルヘルスについては、外部の専門会社とも連携し、不調を抱えた従業員への迅速かつ組織的な対応を行っています。

こうして窓口寄せられる相談や通報は匿名でも可能としており、報告者のプライバシーを守り、不利益な扱いを受けることがないように配慮しています。

グループ全体の 情報セキュリティ管理体制を確立

プリマハム(株)では、個人情報保護法に基づき、お客さまやお取引先様の個人情報を含むさまざまな情報の保護に努めるとともに、その指針として「プライバシーポリシー」「個人情報保護規則」を策定しています。加えて、「情報セキュリティ委員会」と、部署ごとの情報セキュリティに責任を持つ「情報セキュリティ管理者」を設置し、全社をカバーする情報セキュリティ管理体制を確立しています。また、日々の業務のなかで特に注意すべき項目は、各職場に「情報セキュリティ重点項目」として掲示し、従業員の注意を喚起しています。

一方、グループ会社ではコンプライアンス担当役員が情報セキュリティ管理者を担っています。

● ISO/IEC 27001の認証を取得

プリマハム(株)の情報システム部門が独立して誕生したプリマシステム開発(株)は、情報セキュリティを確保・維持するために、2004年11月に情報セキュリティマネジメントシステムの適合性評価基準である「ISMS認証基準(Ver.2.0)」の認証を取得。2007年3月には、国際規格「ISO/IEC 27001」への移行を完了しました。

さらに、2014年度は「ISO/IEC 27001:2013」に対応すべく、規定などの見直しや変更を実施しました。

● 「ソーシャルメディアポリシー」を策定・公開

近年、企業の従業員がTwitterなどのソーシャルメディア上に不用意に内部情報を書き込み、拡散させてしまう事例が増えています。

プリマハムグループでは、2013年7月に基本ポリシーとソーシャルメディアに対する心構えなどについてまとめた「ソーシャルメディアポリシー」を策定し、Webサイト上で公開しています。

Web ソーシャルメディアポリシー
<http://www.primaham.co.jp/socialmediapolicy.html>

● インサイダー取引防止のために「J-IRISS」に登録

インサイダー取引を防止するために、プリマハムグループでは、年1回、「内部情報管理および内部者取引(インサイダー取引)規制に関する規定」に定められた内容を確認するよう通知しています。

さらに、部長以上を全員、日本証券業協会が提供するデータベース「J-IRISS(ジェイ・アイリス)」に登録しています。このデータベースに登録しておくことで証券会社が照合・確認でき、インサイダー取引を未然に防止できます。

リスクマネジメント

リスクを明確にし 各管理部署が対策を強化

事業に伴うさまざまなリスクを明確にし、その影響を最小限に抑えるために、想定される事業所のリスクとそれぞれの管理責任部署を「リスク管理規定」に定めています。

この規定に基づいて、各管理責任部署では対策を講じる必要があるリスクを特定し、対策を講じています。

● 「異物混入」のリスク低減のために

食品メーカーにとって異物混入は業種固有のリスクともいえる問題です。特に海外からの原料調達では、養豚場や船舶などでの輸送時は直接管理できないリスクを抱えています。そこで当社では、そのリスクを低減するために、

製造工程でのチェックを強化。例えば、1分間に約2,000個のソーセージが流れていくラインもX線などさまざまな技術を駆使して品質を管理しています。



X線を導入した製造ライン

Topic

フードディフェンスを強化

プリマハムグループでは、従来から工場への私物持ち込みは強く禁じていましたが、2013年度から作業着のポケットはすべて外すか縫いつけることを原則とし、監視カメラを増設するなどフードディフェンス対策を充実させました。

また、以前から作業着の背面には名前を明記したゼッケンをつけて、誰が作業しているかをわかるようにすることにしています。



作業者がわかるように名前を表示

食品メーカーの供給責任を果たすため 事業継続計画(BCP)を策定

東日本大震災を教訓に、災害時のサプライチェーン維持を目的とした事業継続計画(BCP)を2012年4月に策定しました。以来、半年ごとに関連部署の課題を集約し、対応策を検討・実施しています。

2015年3月31日現在、全国51の事業所で3日分の非常食や水、非常用トイレなどの災害用備蓄品の完備を終えました(2017年度中に交換予定)。また、本社では100枚の毛布を新たに配備したほか、東日本大震災の経験をいかし、乾電池で駆動するPHSを各事業所に配置して災害時も迅速な対応ができるような体制を整えています。

● 年2回「緊急連絡網」を配布

プリマハム(株)では、BCP(事業継続計画)対策の一環として、緊急時に安否確認や被害把握をするための「緊急連絡網」を管理者に配布しています。また、最新情報を反映するため、7月・12月の年2回更新しています。

● 「地震等自然災害時対応マニュアル」を策定

プリマハム(株)は、1995年に「地震等自然災害時対応マニュアル」を作成し、定期的な内容の見直しをしています。このマニュアルには、「災害時の緊急対応」「平常時における対応と準備」などが記されており、現在は各部署だけでなく、グループ会社にも展開しています。

お客さまの声を反映しながら安全・安心をしっかりと確保し 喜ばれる商品をお届けします

お肉のおいしさと 栄養を食卓へ

さまざまな世帯や生活スタイル、 嗜好に応える商品を開発

お肉は必須アミノ酸やビタミンを豊富に含むことから、バランスの良い食事には欠かせません。プリマハムグループは、こうしたお肉の持つ機能をより広めていくために、牛・豚・鶏などの精肉やカットした加工肉、ハム・ソーセージ、ハンバーグなどの加工食品、さらに惣菜、調理パン、デザートなど、さまざまな商品を提供しています。

近年は、高齢化や共働き世帯の増加、個食化などを受けて、1回で使い切れる量をパックした商品、調理時間を短縮できる商品、さらには国産原料を使ったこだわりの商品やお客さまの声をもとに量・味を改良した商品など、さまざまな世帯や生活スタイル、志向の変化に応える、おいしく便利で使いやすい商品の開発を進めています。

また、子育てが忙しい、重い荷物が持てないなど、さま

ざまな理由でお店に行けないお客さま向けにネット販売も行っています。

 プリマハム(株)のオンラインショッピングサイト
<http://www.primaham.co.jp/shop/>

VOICE

量・味を変えた「直火焼デミグラスハンバーグ」が お客さまからもたいへん好評です!

既存のハンバーグは、お客さまから「おいしいけれど量が足りない」という声が寄せられていました。そこでボリュームを100gにし、ふっくらとした形状の「Prima Grill 直火焼デミグラスハンバーグ」を開発し、2015年の春に本格的に販売しました。現在もいろいろなスーパーに商品を置いていただいているのを見て、お客さまにご支持いただいていることを実感しています。



商品企画部
関知子

● 商品パッケージにもさまざまな工夫を

プリマハムグループは、新商品の発売や商品リニューアルに合わせて商品パッケージの改良をしています。

商品を開封後に繰り返し密閉できる機能を備えたパッケージ「フタピタ」も、そのひとつです。「单身なので数回に分けて食べる時に便利」「使うたびにフタができるので家族バラバラの食事にも対応できる」「容器への移し替えがいらず、ゴミも減らせる」などのメリットから、お客さまの好評を得て、採用商品数も増えています。

また、安全性や開けやすさ、わかりやすさなどに配慮したパッケージも次々と開発しています。

国産原料を使ったこだわりの逸品
かみふらの工房シリーズ

フライパンで簡単に調理できる商品
絶品点心 春巻トレイシリーズ

家庭での食事をおいしく飾る商品
Prima Grill直火焼デミグラスハンバーグ

点字ラベルを採用
香薫あらびきポーク ロングウインナー

業界初の試み!
安全性が高い

開けやすく、剥がしやすい
2ヶ所の開け口でらくらく

そのまま食べてみてください!

全5種をご用意。これだけの品揃えはプリマハムだけ!

「夕食として食べたい」という声に応じてボリュームアップ

「香薫のロングウインナーがほしい」というご要望にお応えして

角が丸く柔らかい※ので肌を傷つけない

※ 無溶剤型ラミネートを使用

幅広いチャネルで 業務用商品の付加価値向上を推進

プリマハムグループでは、生肉の加工場の全国体制を整備したチルドメーカーとしての強みをいかし、店頭で焼く・揚げるだけでおいしく食べられるようなお肉の加工品を365日配送で提供しています。従来は店頭調理惣菜に使用される食材は冷凍食品が中心でしたが、より新鮮な食材提供を可能にしたことで惣菜の付加価値向上と調理負荷削減を支えています。



● 業務用カタログ「ふれあいの食彩®」でメニュー提案

プリマハム(株)は、裾野の広い業務用食材での販売拡大を目指し、調理例および調理方法を掲載した業務用の商品カタログを制作して2015年1月から配布しています。ラインアップは、ウインナー、ハム・ベーコンから、ミートデリ、カツ類、唐揚げ、生肉・味つけ肉まで豊富で、レストランのメニュー開発や量販・小売店の惣菜ラインアップの多様化に役立っていただいています。



Topic

エッセンハウスの「宮崎牛サーロインすてーき御膳」が金賞を受賞!

プリマハムグループの(株)エッセンハウスの商品「宮崎牛サーロインすてーき御膳」が、国内最大級の業務用食品・食材機器の総合見本市「ファベックス2015」で開催された「第6回惣菜・べんとうグランプリ2015 プレミア部門」で金賞を受賞しました。

このお弁当は、おもてなし用に開発した特別なお弁当で、宮崎県が誇る「宮崎牛」を贅沢に使用して豪華な食卓を演出する地産地消型の逸品です。「全国和牛能力共進会」の内閣総理大臣賞2連覇中の宮崎牛のステーキを味わえる高級感溢れる商品です。



宮崎牛サーロインすてーき御膳

VOICE

金賞受賞を機に九州全域の百貨店に展開していきます

宮崎牛を使ったこのお弁当は、洋食にこだわり、レストランでの食事をイメージしました。先行販売した宮崎では、月間1,000個以上の売上げがありました。

今回の金賞受賞を機に、九州全域の百貨店へ展開していきます。



エッセンハウス本部商品担当
小野 将義(右)
天神岩田屋エッセンハウス 店長
萩尾 尚之(左)

食品安全への取り組み

フードチェーン全体で一貫した食品管理体制を構築

プリマハムグループでは、お客さまに安全・安心な商品をお届けするために、食品安全管理システムの国際規格であるISO 22000を取り入れるとともに、食品安全方針のもと商品企画・開発から調達、製造、物流までのフードチェーン全体で一貫した管理体制を構築し、運用しています。

食品安全マネジメントシステムの認証取得状況

● FSSC 22000

事業所	所在地
北海道工場*	北海道 上川郡清水町
三重工場*	三重県 伊賀市
関西プロセスセンター*	大阪府 大阪市
秋田プリマ食品(株)	秋田県 由利本荘市
プリマハムタイランド社	タイ・プラチンプリ県

* プリマハム(株)の事業所

● ISO 22000

事業所	所在地
茨城工場*	茨城県 土浦市
鹿児島工場*	鹿児島県 いちき串木野市
本社*	東京都 品川区
(株)かみふらの工房	北海道 空知郡 上富良野町
熊本プリマ(株)	熊本県 菊池市
プライムフーズ(株)	群馬県 前橋市
プリマ食品(株)	埼玉県 比企郡 吉見町
四国フーズ(株)	香川県 丸亀市
プリマルーケ(株)	長崎県 雲仙市
山東美好食品有限公司	中国・山東省

* プリマハム(株)の事業所

● 品質を段階ごとに徹底管理

【商品企画・開発】

お客さまのニーズやお取引先様の要望を商品開発に反映させるため、試作を重ねるとともに、工場や検査機関でアレルギー物質や微生物などの安全面を確認・点検。また、商品表示の法令への適合や商品の規格内容に問題がないかを審査・承認します。



各商品の規格書類

【調達】

調達先様から納入された原材料や商品について、微生物、残留農薬、動物用医薬品、アレルギー物質などの状況と安全性を確認・点検。また、商品の調達先様に当社の品質管理の考え方を理解していただくための説明会を定期的実施するとともに、工場を訪問して独自に作成したチェック表に基づいて品質管理の状況を点検しています。



調達先様説明会

【製造】

アレルギー物質や異物混入を防止するため、調味料の計量・混合作業は、使用する調合室や器具を明確に区分し、設備の洗浄と衛生管理についても徹底。また、細菌検査や理化学検査(成分検査など)を実施して品質基準に適

合しているかを確認するとともに、でき上がった商品の色合い、味、香り、弾力などを専任者が調理し、実際に食べて確認しています。加えて、出荷製品の一部はサンプルとして賞味期限まで保管し、定期的に品質やおいしさが保たれているかを確認しています。



アレルギー物質ごとに区分された調合室



工場内での検査風景

【物流】

物流センターでの保管、トラックでの輸送、お取引先様への納品までの全物流工程を通じて、温度管理を徹底しています。また、出荷・配送の記録をとって、万一問題が発生した場合にもトレースが確認できる体制を整備しています。



低温管理された物流センター



温度チェック風景

食品安全方針

【基本理念】

プリマハムは、経営理念「商品と品質はプリマの命」「絶えざる革新でお客様に貢献」を旨とし、すべての従業員がフードチェーンの一員として常に食品安全を優先した『もの作り』を行ないます。

各組織が、自らの責任範囲の食品安全を確保し、各組織を連鎖することでフードチェーン全体の食品安全を確保します。このために、お客様やお取引先とのコミュニケーションを欠かしません。事業活動のあらゆる場面において従業員一人ひとりが、食品安全の意識を高め、食品安全に基づいた美味しい食品を食卓にお届けします。

【基本方針】

1.法規制順守

- 食品安全法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

2.コミュニケーション

- フードチェーンの一員として常に食品安全を優先した『もの作り』を行うために、お客さまやお取引先とのコミュニケーションを欠かしません。
- 常に法規制当局とのコミュニケーションを持ちます。
- 食品安全に影響する問題を従業員に周知させます。

3.啓蒙活動

- 食品安全に対する意識向上を図るため、食品製造に従事する従業員に食品安全教育を実施します。

4.継続的適切性のレビュー

- マネジメントレビューを実施し、食品安全方針及び目標の改定を適切に行います。

2段階の内部監査で 品質を徹底管理

プリマハムグループは、ISO 22000の監査員による監査と、品質保証部の監査員による監査の2種類の監査を実施し、異なる目線で食品安全管理体制を厳しくチェックしています。

● ISO 22000に基づく内部監査

ISO 22000の認証を取得しているすべての事業所を対象に、要求事項への適合性および有効性を確認し、継続的な改善を図っています。

内部監査員は各事業所の従業員から選出しており、2015年5月現在、プリマハムグループ全体で112名が監査員の資格を有しています。監査員の育成も従業員に対する食品安全教育の一環と考え、毎年増員しています。

● 品質保証部による内部監査

プリマハムグループの工場を対象に、食品関連の法令をもとにした自社基準への適合性を確認しています。



内部監査の様子

トレーサビリティシステムを構築

原材料の受け入れから製造、出荷にいたるまでの各種データを記録して、万が一のときも生産履歴(使用原料、添加物、包装資材など)を追跡できる仕組みを構築し、年2回の演習を実施しています。演習では、各部署に対してある商品の賞味期限を指定し、その商品の生産履歴が正確にトレースできるかどうかを確認しています。

従業員一人ひとりに食品安全教育を徹底

食品の安全性を確保するためには、従業員一人ひとりが食品安全を意識し、それぞれの作業で自分の職務を遂行することが重要です。プリマハムグループでは、定期的に従業員教育を実施して意識の向上を図るとともに、重要なポイントを理解しやすいように「職務マニュアル」には写真を多く掲載しています。



食品安全教育風景

食物アレルギーへの対応

調達・開発・製造の各段階で 厳しくチェック

原材料の調達、商品の開発・製造の各段階において、食物アレルギー物質の混入を防止する対策を講じています。また、製造に使った設備は終了後に分解して細かな部分まで洗浄し、独自に開発したアレルギー物質検査キットを用いて、洗い残しがないかを徹底的に確認しています。



設備の洗浄

商品パッケージにもわかりやすく表示

商品パッケージの原材料名欄に食品表示法によって表示が義務づけられている特定原材料7品目と、表示が推奨されている20品目をアレルギー物質として表示しています。また、お客さまが確認しやすいようにパッケージに一覧にしてわかりやすく表示しているほか、Webサイトやお客さま相談室でも情報を提供しています。

パッケージ 表面

◆アレルギー物質(特定原材料7品目)を記載しています。
左記のアレルギー物質を含む原材料を使用しています。



パッケージ 裏面

本製品は食物アレルギーをお持ちの方のために、国が定めたアレルギー物質(特定原材料7品目、特定原材料に準ずる20品目)を記載しています。
下記のアレルギー物質を含む原材料を使用しています。
※アレルギー物質の由来は原材料毎に表示しています。

卵	乳	大豆	豚肉
---	---	----	----

自社開発の検査キットを社外にも販売

プリマハム(株)は、アレルギー物質の混入を検査するために開発したキットをプリマハムグループで使用するだけでなく、「アレルゲンアイ®シリーズ」としてほかの食品メーカーなどに販売しています。このキットには、消費者庁のガイドラインに準拠した「ELISAキット」と、簡易検査用の「イムノクロマトキット」があります。

「アレルゲンアイ®シリーズ」はモノクローナル抗体という特殊な抗体を使用しており、検査精度が高いことが特長です。

● アレルギー物質の含有量を測定するELISAキット 「アレルゲンアイ® ELISA」シリーズ

食品衛生法によって表示が義務づけられている「乳」「卵」「小麦」「そば」「落花生」と、表示が推奨されている「キウイフルーツ」の混入について、食品中にどのくらいの量が含まれているかを検査することができます。

「乳」「卵」「小麦」「そば」「落花生」については、性能はそのままで毒物を含まない抽出液に改良し、より使いやすい「アレルゲンアイ® ELISA II」シリーズとして2014年4月から販売を開始いたしました。また、いずれのELISAキットも、消費者庁のガイドラインに準拠しています。

● アレルギー物質の有無を特定するイムノクロマトキット 「アレルゲンアイ® イムノクロマト」シリーズ

イムノクロマトキットは、特別な測定機器を必要とせず、誰でも短時間かつ低コストで検査が行えます。表示義務がある「乳」「卵」「小麦」「そば」「落花生」「甲殻類」、表示が推奨されている「キウイフルーツ」の混入の有無を目で見て検査できます。また、2015年6月には表示が推奨されてい

る「大豆」と「ごま」の検査用イムノクロマトキットも販売を開始しました。

これらのイムノクロマトキットは、さまざまな食品工場であレルギー物質混入の有無を監視するために活用されています。



アレルゲンアイ®
ELISA II シリーズ



アレルゲンアイ®
イムノクロマトシリーズ



大豆、ごま用
イムノクロマトキット

Topic

日本食品衛生協会の 「アレルギー物質検査実習」に協力

2014年8月22日に開かれた日本食品衛生協会 食品衛生研究所主催の「アレルギー物質検査実習」において、プリマハム(株)基礎研究所の従業員が講師を務めました。

この実習は、品質管理に携わる方や製造現場での混入制御に携わる方を対象にしたもので、特定原材料表示に必要となる基礎知識や混入リスクの評価や原材料の確認のための検査方法の習得を目的としています。当社は独自開発のキットを使って、アレルギー物質混入の有無を検査する実習を行いました。



VOICE

食品企業に貢献していきます

基本的な検査方法から結果の判定まで体験していただいたので「日々のアレルギー物質検査に活用できる」と参加者からも好評でした。アレルギー物質の検査は「難しい」と思われがちですが、当社の検査キットは特別な機器を必要とせず、約1時間で結果の判定が可能です。今後も実習などを通じて、食品企業のアレルギー物質の管理に貢献できるよう努めていきます。



開発本部 基礎研究所
加藤 重城

お客さまとの コミュニケーション

ご意見・ご要望を 「お客様相談室」で受けつけ

プリマハムグループでは、お客さまからのさまざまなお問い合わせやご意見・ご要望を受けつける窓口として「お客様相談室」を設置しています。フリーダイヤルのほか、手紙、メールでも受けつけています。2014年度のお問い合わせ件数は11,614件で、おもな問い合わせとしては調理方法に関することやキャンペーンや販売店などの情報に関するものでした。

お客様相談室では、商品についてのお問い合わせにお答えするため、社内各部署との連携や情報交換を密にし、寄せられた「声」はシステムに詳細に記録するとともに、その日のうちに関連部署にイントラネットで配信して情報を共有しています。また、Webサイトには「よくあるお問い合わせ」をカテゴリ別にまとめて掲載し、お客さまの利便性向上に努めています。

お取引先様と共同でキャンペーンを実施

● 楽天イーグルスのホームスタジアムに 東北を応援するメッセージを掲載

2014年に東北楽天ゴールデンイーグルスは創設10周年を迎えました。プリマハム(株)は、球団創設時からオフィシャルスポンサーとしてともに歩み、震災以降はホームスタジアムに東北応援メッセージを掲げています。

今後も同球団のサポートを継続していきたいと思っております。



ベンチ上の東北応援メッセージ

● ラグーナテンボスの公式スポンサーとして 2015年夏からキャンペーンを開始

プリマハム(株)は、2014年11月にラグーナテンボスと公式スポンサー契約を締結しました。ラグーナテンボスはベネチアをモデルとしたマリニリゾートで、名古屋から約1時間、三河湾を望む立地にあります。2015年夏からキャンペーンをはじめ、各種コラボレーション企画を展開しています。今回の契約によって東海地方にもキャンペーンの拠点ができました。将来的には各地域にも広げていきたいと考えています。



ラグーナテンボス

東京ディズニーランド®、 東京ディズニーシー®の プライベートパーティー

プリマハム(株)がオフィシャルスポンサーを務める東京ディズニーランド®のレストラン「ザ・ダイヤモンドホースシュー」のプライベートパーティーを毎年実施しています。これは商品をお買い上げいただいたお客さまを抽選でご招待し、お食事やショーを楽しんでいただくというもの。お客さまと直接コミュニケーションを図る大切な機会となっています。加えて2014年10月には東京ディズニーシー®の貸切イベントを開催しました。お客さまからも好評なため、2015年からはご招待人数を増やしたほか、より多くのお客さまにご応募いただけるよう応募締切も2回に増やしています。



「ザ・ダイヤモンド
ホースシュー」の
プライベート
パーティー
©Disney/Pixar



2015年10月に開催される
貸切イベント「プレシャス
ナイト」のポスター
©Disney

小売店様・流通事業者様の パートナーとして

小売店様や流通事業者様は、お客さまでもあり、消費者とプリマハムグループをつなぐ大切なパートナーでもあります。そこで、小売店様や流通事業者様のプライベートブランド開発やメニュー開発においては、営業担当者が売り場に出向き、その地域のお客さまのニーズを伺いながら、お客さまに喜んでいただける商品・品質・サービスづくりに努めています。また、POP提案やわかりやすい商品情報の提供など、売り場づくりにも協力しています。

WebサイトやSNSを使った情報発信

プリマハムグループは、自社のWebサイトをはじめ、facebookやLINEなどのSNSを通じて、お客さまに役立つ情報を発信しています。

Webサイト内に設けた「ミートスタジオ®」では、当社の商品を使ったレシピを季節・イベントごとに紹介する「プリマハムのおいしいレシピ」を掲載しています。また、知ってほしいそうで意外と知らないお肉の特長を管理栄養士が紹介する「肉の栄養学」、調理器具の賢い使い方や素材の調理方法などを紹介する「料理の基礎知識」など豊富なコンテンツがあります。

facebookでは、商品やキャンペーン、レシピなどの情報を発信しているほか、ミートスタジオに登録(無料)された方にはお得な情報を掲載したメールマガジンも発行しています。また、2015年5月にLINEの公式アカウントを開設し、8月には無料公式スタンプをダウンロードできるようにする予定です。



Webサイト



LINE公式アカウント



facebook

商品に関連する情報の開示

プリマハムグループは、商品のリコールなどお客さまに広くお伝えすべき情報は、さまざまな媒体を用いて社会へ公表しています。

また、問題の解決にあたっては、迅速な原因の究明と再発防止を行っています。

Topic

テレビやトレインチャンネルで 「香薫あらびきポークウイナー」の コマーシャルを放映

2013年12月から全国で3匹の豚のバレリーナが踊る「香薫あらびきポークウイナー」のコマーシャルを放送しています。これによって同商品並びにプリマハムグループの知名度があがり、売上げも増加しています。また、東京の山手線や中央線など6路線のトレインチャンネルでも放送しました。



「香薫あらびきポークウイナー」のコマーシャル

迅速かつ正確な情報開示に努め 株主・投資家の皆さまとの対話を充実させています

株主・投資家の皆さまとの コミュニケーション

開示情報を充実するため IRサイトやTDnetを活用

適切な情報開示に向けて、IRサイトでは中期経営計画の紹介やより詳しい決算ハイライトなどを掲載しています。また、株主総会や決算説明会に参加できなかった株主・投資家の皆さまにも事業や方針を知っていただくために、報告資料(有価証券報告書、決算短信、年次・中間報告書、ファクトブック、コーポレート・ガバナンス報告書、決算説明会資料など)をPDFで簡単にダウンロードできるようにし、検索性を高めています。

このほか、適時開示規則に該当する情報は東京証券取引所が運営する適時開示情報伝達システム「TDnet」で公開するとともに、すみやかに当社のIRサイトに掲載しています。



ファクトブック



年次報告書

当該期中の
TOPICSを報告

機関投資家・アナリストとの 直接対話を重視

プリマハム(株)は、決算説明会を年2回(上半期、期末)開催し、プリマハムグループの事業環境や収益状況、中期計画などを社長自らが説明しています。

2015年3月期の期末決算説明会は49名の方に出席いただきました。

加えて、個別IRミーティングも積極的に開催しており、機関投資家やアナリストの方々との信頼関係の構築に努めています。特に2014年度はお申込みにすべて対応するという方針で70回以上実施し、事業環境や施策、収益の結果分析などについて説明しました。

また、2016年には茨城工場の新プラントが完成予定のため、当社への理解促進と評価向上につなげるために、新プラントの見学会などを計画しています。



2015年3月期の期末決算説明会の様子

株主優待制度を導入

2014年度から、毎年9月末現在の株主名簿に記載された1単元(1,000株)以上保有されている株主様を対象に「株主優待制度」を導入し、11月下旬に3,000円相当の自社製品をお送りしています。

2014年度の優待品は、国産豚肉を原料にした自社製品「特選ロースハム 匠の膳」でした。お送りした株主様からは「おいしかった」というたくさんのお礼をいただくなど、たいへん好評でした。

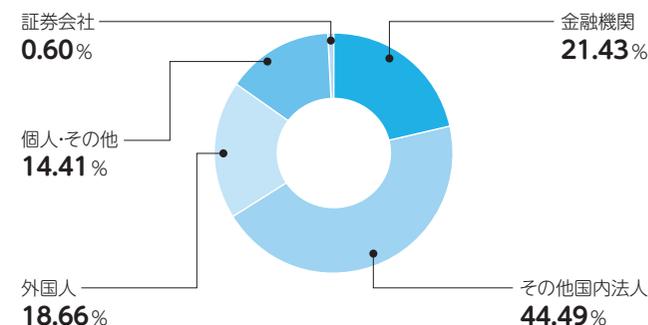


「特選ロースハム 匠の膳」

配当政策

当社は、自己資本比率目標の早期達成に向けて内部留保を確保しつつ、安定配当を継続的に実施できる企業づくりを目指しています。この方針のもと、2015年3月期の配当は、年間2円とさせていただきます。

所有者別株主分布 (2015年3月31日現在)



注: 上記には、自己株式855千株は含まれておりません。

共存共栄のために相互信頼に基づいた パートナーシップを築いています

プリマハムグループの調達概要

国内外の各地に調達先を分散

調達先様を複数持つことは、最適な原材料を調達できるだけでなく、災害や家畜伝染病などで原材料の調達が止まってしまうことを避けられるというメリットもあります。

プリマハムグループでは、食肉、ハム・ソーセージ、加工品などの原材料を世界各地から調達しています。国内では、北海道、東北、関東、四国、九州という日本全国から上質な原材料を仕入れています。

海外では、豚肉はカナダ、アメリカ、メキシコ、ヨーロッパを中心に輸入しています。2013年5月にはブラジル・サンタカタリーナ州産豚肉の輸入が解禁されたため、加工用

原材料として使用可能かどうかを確認後、2014年の歳暮ギフト商品に採用し、お客さまからも好評をいただいています。また、牛肉は、アメリカ、オーストラリアなどを中心に、鶏肉はタイの鶏肉の輸入が解禁されたため、ブラジルとタイでの輸入をしています。

また今後、市場環境の変化に対応するためアイルランド産やスペイン産豚肉の輸入も検討しています。

明確な生産背景のもと ニーズにそったお肉を生産

プリマハムグループは、生産から販売まで一貫した体制を構築することを目指しています。国内の豚肉については、育種生産から肥育、加工、生産、販売までの一貫生産

(インテグレーション)を実現しています。

海外からの輸入品については明確な生産体制を持ったサプライヤーをパートナーに選び、定期的な生産チェックや調達先様とのミーティングなどを実施しています。これによって調達先様と商品のコンセプトや飼料の配合などを提案しあえる密な連携が可能となり、現在、世界各地で豚肉や牛肉のオリジナルブランドを共同開発しています。

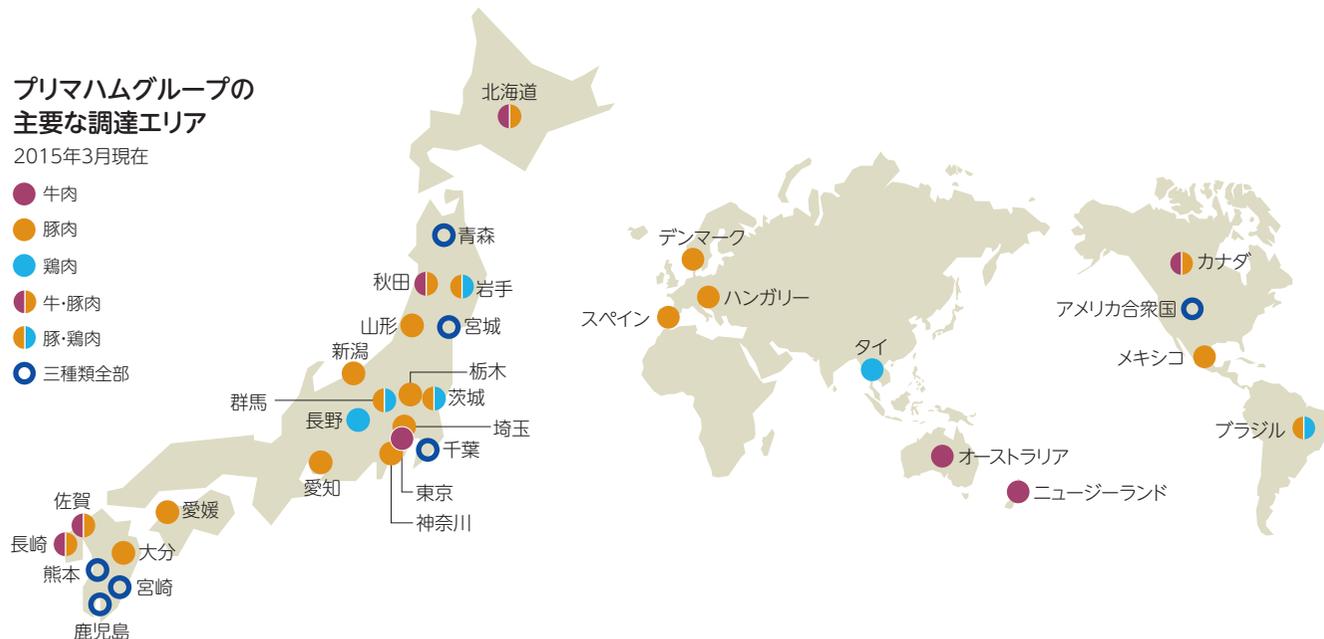
また、より新鮮なお肉をお客さまにお届けするために、航海日数が2週間以内の北米、オーストラリアから国産品と同じチルド(低温冷蔵)品での輸入を実現しています。

こうした取り組みは日本のお客さまからも喜ばれており、今後もさまざまなニーズにそったお肉を開発・生産していきます。

プリマハムグループの 主要な調達エリア

2015年3月現在

- 牛肉
- 豚肉
- 鶏肉
- 牛・豚肉
- 豚・鶏肉
- 三種類全部



輸入オリジナルブランド



「サーティファイド
プレミアムビーフ」
ナショナルビーフ社の
登録商標です。



「味い葡萄牛®」



「サザングレイン
ビーフ®」



「大平原健やか
ポーク®」



「ハーブ三元豚」



「米どり」

麦で育ったふんわりポーク 「mugipo.®(ムギポ)」



「ほんとうに美味しい豚肉を食べてもらいたい」という想いから誕生した「mugipo.」は、麦類を配合した飼料で育てたアメリカ産豚肉の新ブランドです。

食べたときにふんわりとした柔らかさと香りが感じられ、あっさりしていることが特徴です。その秘密は、脂肪融点が高いこと。「mugipo.」は麦類を配合したオリジナル飼料を与えているため飽和脂肪酸が多く含まれ、常温では肉締まりが良く、加熱調理すると脂肪が溶けて柔らかな食感を味わえる国産豚肉により近い肉質を実現しています。



ハーブで育った風味の良い 「オレガノビーフ」



「オレガノビーフ」は、ハーブのオレガノを添加した飼料で育てた風味の良いオーストラリア産の牛肉です。肉質は牧草の種類によって変わるため、オーストラリアの牧草の植生調査を実施し、オーストラリア南部にはマメ科の牧草が多いことが判明しました。マメ科の牧草は窒素やミネラルが豊富に含まれており肉質に良い反面、お肉に牧草臭がつきやすいという難点がありましたが、これを解消するため、消臭効果のあるオレガノを飼料に加え、風味の良い牛肉になるようにしました。



調達先様との コミュニケーション

お互いに見学することで 信頼関係を強化

プリマハムグループでは、販売の状況をより知っていたくために、国内の調達先様に対して店舗などの販売先に同行いただいています。また、販売先様にも調達先様を見学する機会を設け、調達先様の状況を知っていただくようにしています。

海外においては、米国に駐在員を置いて、北米地域の情報収集や調達先様工場の生産チェック、調達先様とのミーティングなどを定期的実施しています。

こうした活動を通じて、今後も調達先様との信頼関係を強化し、互いの発展を目指していきます。

お取引先様に 品質管理の徹底をお願い

お取引先様にも当社の品質管理の考え方を理解していただくため、年1回、お取引先様を対象とした「取引先様説明会」を実施しています。

2014年度は、アレルギー物質の追加(ごま・カシューナッツ)への対応について説明したほか、(独)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の方を招いて、「JAS法に基づく加工食品の表示について」の講演をしていただきました。

また、品質管理の状況についてお取引先様の国内および海外の工場を年1回、実査しています。対象となる工場

には事前に自主点検をしていただいております。そのご回答に基づいて品質管理部門が工場を点検し、より品質管理のレベルが向上するように改善を提案しています。

VOICE

調達先様との意思疎通を大切にしています

工場監査の際には、“お客さま視点”で、商品に不具合をおよぼす要因を発見することを心がけています。不具合を見つけたときなど工場の方に理解していただくことはたいへんですが、調達先様と意思疎通ができる関係こそ、安全・安心な商品を提供するうえで重要だと思っています。

今後、アメリカやタイなども担当する予定なので、品質管理の知識を増やすとともに、英語を特訓中です。



品質管理部
浦木 健太郎

下請法の順守

従業員への教育を徹底

営業部門では公正取引委員会が開催する講習会を受講するなど、生産部門では調達先様に対して、下請法の概要を説明する機会を設けるなどの取り組みを行っています。

加えて、委託製造先との契約締結時には、その契約が下請法に違反していないか、法的な問題がないかを法務部が審査しています。

一人ひとりの多彩な能力を伸ばしながら 全員がいきいきと働ける職場づくりに取り組んでいます

雇用に対する考え方

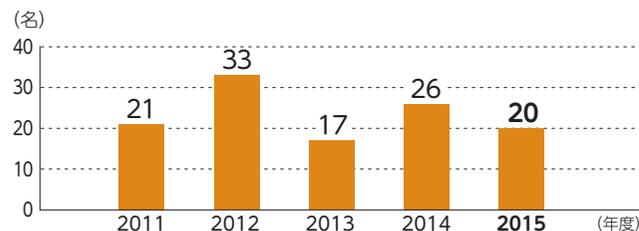
少数精鋭を基本に人材を確保・育成

プリマハム(株)は、継続して新規採用を実施しており、少数精鋭を基本に「プロ意識を持って入社できる人」「会社とパートナーシップをとってがんばれる人」「何事にもチャレンジできる人」を求めています。

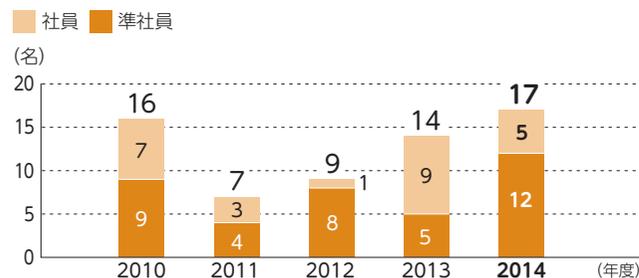
その一環として、パートタイム従業員を対象にした「社員・準社員登用制度」を設けています。これは試験・面接などを通じて、希望者が必要な能力を備えているかなどを確認し、社員または準社員※として登用するものです。

※準社員:勤務地を限定し、原則転勤がない正規従業員

新規採用社員数の推移



社員・準社員登用者数の推移



多様性のある職場づくり

女性従業員の活躍の場を拡大

プリマハムグループでは、女性従業員が商品の企画・開発や営業、品質管理、研究など、さまざまな業務で活躍しています。女性は母親や妻など複数の視点を持っており、その発想は食品メーカーのものづくりにとって貴重な財産であるため、今後さらに活躍の場が広がるよう管理・監督者の育成・登用を進めていきます。

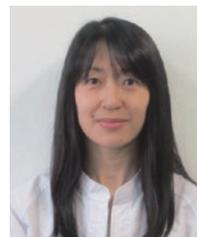
プリマハム(株)は、昇進・昇格のための社内試験を制度化しており、2015年4月1日現在、女性の課長が3名、次

VOICE

女性従業員がキャリアアップすることが 当たり前になってきてうれしいです!

結婚や出産などを理由に辞めるという女性従業員が減り、仕事に復帰してキャリアアップすることが当たり前になってきてとてもうれしいです。働く人それぞれに応じた環境が整ってくれば、さまざまな人が活躍できるチャンスにつながるんだ、ということを実感してきています。

女性が活躍できる場が増えることは、職場の多様化にもつながります。もっと働きやすく、もっと良い会社になれるように一丸となってがんばります!



プリマ食品(株)
末岡 麻里子

期管理職を目指す女性係長12名が活躍しています。

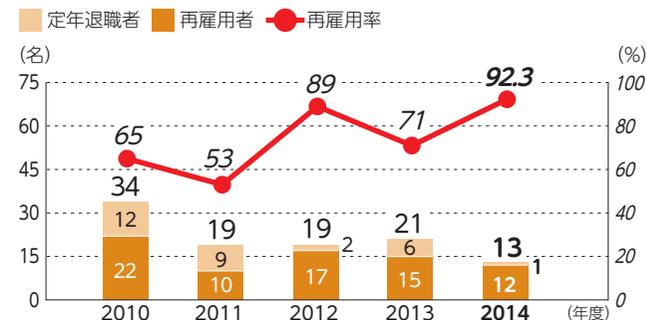
また、プライムデリカ(株)では女性の部長1名、課長6名、現場のリーダーである監督職26名が活躍しています。

再雇用制度を導入して 60歳以上の雇用を確保

プリマハム(株)は、改正高齢者雇用安定法が施行される以前の2001年度から定年退職者の再雇用制度を導入しており、心身ともに健康で会社規定上問題がない場合は、65歳まで働くことができます。現在も、さまざまな場面で高い技術力や経験を持つベテラン従業員が活躍しています。

また、再雇用制度を従業員にしっかり理解してもらうために55歳時点で全従業員に再雇用に関する面接を実施し、再雇用制度についての説明や再雇用の希望の有無を確認しているほか、定年退職6ヶ月前にも再度面接を行っています。

再雇用制度利用者の推移



現地採用を促進するとともに 現地での人材育成を強化

プリマハムグループは、海外拠点において現地人材を積極的に採用するとともに、現地の経済発展を担える「人づくり」に取り組んでいます。

例えば、プリマハムタイランド社の主要な現地従業員を日本のプリマ食品(株)に招いて研修を実施し、その後、研修に参加した従業員たちは製造部門の管理職として活躍しています。また、「外国人技能実習制度」のもとにプリマハム(株)の茨城工場と三重工場で受け入れた中国人実習生のうち数名を中国の康普(蘇州)食品有限公司で採用しています。



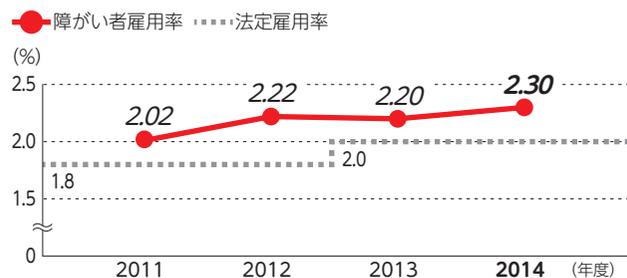
中国人実習生の研修の様子

グループでの障がい者の 雇用拡大を推進

プリマハム(株)は、重度障がい者多数雇用事業所として1995年4月に長崎県、雲仙市などの出資のもとに「特例子会社プリマルーケ株式会社」を設立しました。

プリマハムグループの2014年度における障がい者雇用率は2.3%となっています。

障がい者雇用率の推移



ノーマライゼーションの実践

プリマルーケ(株)は2015年4月1日現在、19名の障がい者を雇用し、製造などを行っています。

同社では、各種障がいの特性を考慮し、職場におけるサポート方法を学んだ「第2号職場適応援助者」や「障がい者職業生活相談員」が職場ごとに配置されており、障がい者と健常者の架け橋となって働きやすい職場づくりを推進しています。また、障がい者と健常者がペアを組んだ教育訓練や手話の講習を実施しているほか、各部屋の床はフラットにし、通路や階段には手すりを設置するなど、ハード面にも配慮しています。

VOICE

障がい者の方々の職場定着に向けて さまざまな施策を実践しています

プリマルーケ(株)では、職場適応援助者および職業生活相談員の有資格者を配置し、職場定着に向けた取り組みを継続的に進めています。

職場適性と能力開発では、「潜在能力を最大限に引き出せる職場配置」「周囲とのコミュニケーションが円滑にできるような職場配置」「自主的に報告・連絡・相談が行えるような指示系統および相談体制づくり」に留意しています。

また、仕事をするうえでのさまざまな問題は、外部の支援団体とケース会議を開催し、問題点の抽出や今後の指導方法などを協議しています。

今後も職場定着に向けたさまざまな施策を実践し、プリマハムグループの特例子会社としての使命を全うしていきます。



プリマルーケ(株)
徳永 順一

人材の育成

体系的な人材育成プログラムを構築

プリマハム(株)では、「次世代人材育成プログラム」を構築し、採用時から階層別に必要な研修を実施しており、一人ひとりが職階に応じた業務遂行力を養い、管理能力を伸ばしています。

また、業務に即した専門スキルの習得を図るために各種の「スキルアップ・プログラム」を設けているほか、「資格取得・自己啓発支援プログラム」では、業務に密接に関連する専門的なスキルの習得を目指し、各種資格取得や通信教育講座の受講を推奨しています。公的資格の取得者には報奨金を、指定通信教育講座修了者には受講料の一部

を支給しており、従業員の自己啓発・スキルアップのモチベーション向上につなげています。

● ビジネス基礎研修で若手社員を育成

入社3～5年目の従業員を対象とした「ビジネス基礎研修」は、若手従業員に改めてビジネススキルを身につけ、自分で考え、工夫して、行動する経営マインドを持ってもらうことを目標としています。そのため、グループディスカッションで決められたテーマについて話し合い、グループ内で出た結論を発表するという形式を採用しています。

2014年度は、8～10月の間に4回(計8日間)開催し、23名が参加しました。また、研修修了後は全4回の講義を通して習得した知識を活用し、「自分の業務、自組織の業務における改善提

案」を参加者自身が作成し、各職場の上司へプレゼンしました。

ビジネス基礎研修講座

- 第1回目 ロジカルシンキング問題解決講座
- 第2回目 コミュニケーション講座
- 第3回目 財務知識講座
- 第4回目 企画カブレゼンテーション講座

● 幅広い知識を身につけるために 「お肉検定」「惣菜管理士」の資格取得を推奨

プリマハム(株)は、ハムなどの製造について正確な知識と技術を有した国家資格「ハム・ソーセージ・ベーコン製造技能士」を製造部門はもとより、営業部門でも取得することを進めています。

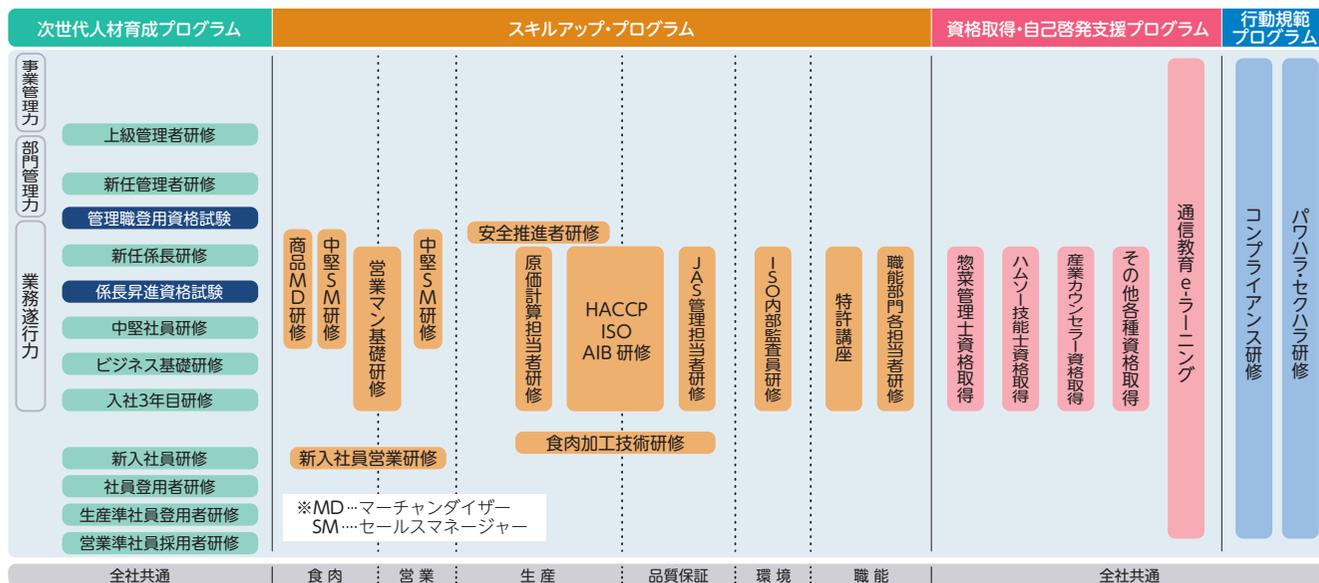
2014年度は、食肉に関するより幅広い知識を身につけるための「お肉検定」や、惣菜だけでなく食品に関する基礎から専門知識までを総合的に修得する「惣菜管理士」の資格取得を新たに奨励しました。その結果、お肉検定には1級126名、2級6名、惣菜管理士には1級4名、2級14名、3級72名が合格しました。

公的資格取得者一覧

資格名称	等級	資格取得者
ハム・ソーセージ・ベーコン製造技能士	1級	148名
	2級	92名
	合計	240名
お肉検定	1級	164名
	2級	6名
	合計	170名
惣菜管理士	1級	25名
	2級	42名
	3級	80名
	合計	147名

※ 2015年3月末現在

研修体系図



Topic

「今までなかったものづくり」の
実現に向けて開発要員を養成

2014年、商品開発や基礎研究、生産技術開発が一体となった「開発本部」が発足しました。この部署は「今までにないものをつくる」ことを目的に立ち上げられたもので、それぞれが培ってきた多彩なノウハウを結集し、開発本部が掲げる5つのテーマ「生肉の追求」「革新的なものづくり」「おいしさ・楽しさの具現化」「安全・安心」「簡便性・利便性の追求」を研究しています。

現在、開発本部の従業員はこれまでにない要素技術を生み出すために、部門内の勉強会に参加したり、国内外の情報収集などを積極的に進めています。

VOICE

他社には真似できない
革新的なものづくりを目指しています

他社には真似できない革新的な技術や商品を開発することを目指して開発本部に新たに設立されたのが「ものづくり部」です。現在は、社内外の関連箇所と連携し、新技術・大型商品の開発をはじめ、製造工程の短縮化や独自技術のさらなる活用法の検討などに取り組んでいます。また、国内や海外の研修や展示会に積極的に参加して、分野を問わず、さまざまな知見を吸収しています。



開発本部ものづくり部
谷 宏

働きがいのある環境づくり

公正な人事評価のために
「評定者会議」を開催

プリマハム(株)は、公正な人事評価のために管理職以上が参加する「評定者会議」を事業所ごとに開催し、複数の視点で従業員の評価を議論・決定しています。

また、この結果を毎年1回かならず従業員にフィードバックし、現状の弱みと強み、今後の課題と目標などのすりあわせを行い、キャリア・スキルアップにつなげています。

今後は、従業員のキャリア・スキルアップに確実につなげていけるよう評価者のレベルアップ研修などを検討しているほか、2015年度はパートタイム従業員も面接を通じて評価をフィードバックし、モチベーションの向上や仕事の悩みの問題解決につなげていきます。

管理職候補と係長候補を対象に
社内試験制度を実施

プリマハム(株)は、適切に昇進・昇格が行われるように管理職候補と係長候補を対象に社内試験制度を年1回実施しています。

「管理職登用資格試験」は、筆記試験や論文試験、人事部による面接試験、管理職に必要な能力を客観的に評価するアセスメント試験、主管本部の本部長クラスによる面接を実施し、管理職としての資質を複数の視点で評価しています。またアセスメント試験では、不足している部分を通信教育などによって補うこととしています。

「係長昇進資格試験」は、筆記試験や論文、人事部による面接試験によって合否を決定しています。

高い専門性と実績を残した
従業員を表彰

高い専門性と実績を残した従業員を表彰し、モチベーションの維持・向上に努めています。

例えば、営業・生産部門では、成績優秀者を対象とした海外研修を行っており、営業部門はヨーロッパでおもに流通の視察により市場を勉強し、生産部門は専門性を高める目的でハム・ソーセージ製造の本場ドイツなどで食肉加工技術や最新の生産設備を学んでいます。



営業部門の海外研修
(フランス・パリ)



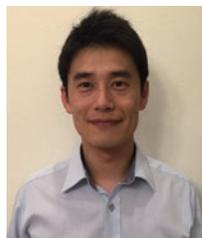
生産部門の海外研修
(ドイツの国際工業展)

VOICE

“本物の伝統的食文化”を体感して 新たな視点が芽生えました

海外研修でイタリア・パルマを訪れ、2000年も前から継承されているこだわりの伝統的製法の生ハム工場を訪問しました。甘味があり、口どけの良い食感の生ハムは、まさに“本物の逸品”でした。

そのほか、ヨーロッパ現地を訪問させていただき、直接、本物の伝統的食文化などを体感したことで自分のなかに新たな視点が芽生えるなど、貴重な財産となりました。会社や同僚などに感謝します。今後の仕事への活力となりました。



フードサービス事業部
下ノ村 公彦

公的資格の取得者に「資格取得報奨金」を支給

プリマハム(株)は、従業員の自己啓発を推奨するために公的資格の取得者に報奨金を支給する制度や、指定通信教育講座の修了者へ受講料の一部を補助する制度を導入しています。

報奨金の支給対象となる公的資格は、社会的に求められる資格の変化にあわせて定期的に見直しをしています。

また、業務上の発明で特許を取得した従業員の成果に対しても、報奨金を支給する制度を導入しています。

働きやすい職場環境づくり

出産・育児や介護と仕事の両立を支援

出産や子育て、介護などの事情を抱える従業員を支援するために、プリマハム(株)では法定基準を上回るさまざまな支援制度を導入しており、2009年11月には「次世代育成マーク(愛称:くるみんマーク)」も取得しました。従業員一人ひとりが能力を発揮しやすい職場環境をつくっています。



くるみんマーク

主な育児・介護支援制度

制度	内容
育児休業制度	最大1歳6ヶ月または満1歳を超えた年度末まで
育児にかかわる短時間勤務制度	小学校3年生まで1日2時間以内
育児時間制度	3歳未満まで1日2時間以内 (1時間までは通常勤務したものとする)
介護休業制度	1年以内
介護にかかわる短時間勤務制度	1日2時間以内(1年以内)

有休取得率の向上を目指して 年間4日間の計画有休を設定

プリマハム(株)は、有給休暇の取得率の向上を目指して2005年から社員・準社員を対象に「計画有休制度」を導入しています。この制度では、従業員が有給休暇を取得しやすい環境をつくるために、年度当初に有給休暇日を計画し、その計画に基づいて取得することで取得率の向上につなげています。

2015年度からは計画有休日数を3日間から4日間に増やすとともに、制度の対象者をパートタイム従業員や再雇用者まで拡大するなど、より一層ワークライフバランスを推進する取り組みを実施しています。

Topic

新たな退職金制度として 「確定拠出型企業年金」を導入

2014年度から退職金制度として「確定拠出型企業年金」を導入し、退職金水準も引き上げました。確定拠出型企業年金とは、会社が拠出した掛金を従業員の判断で運用し、その結果次第で将来受け取る金額が変動するというものです。導入にあたっては制度の理解を深めていただくため、対象者全員に説明会を実施しました。

また、今後は確定拠出型企業年金だけでなく、セカンドライフに向けた準備を支援する研修も検討していきます。

労働安全衛生の確保

労働災害防止に向けた マネジメントシステムを構築

プリマハムグループでは、グループ各社で安全管理体制を整えるとともに、労働災害ゼロを目指して2013年度に策定した「安全衛生中期実施計画」に基づき、グループ一体となって安全活動に取り組んでいます。

2014年度も中期実施計画に基づき、外部コンサルタントによる安全巡回指導や集合研修、全国安全週間(7月)、全国労働衛生週間(10月)、プリマハム安全衛生週間(12月)などを実施しました。その結果、重大災害は減少しましたが、移動・運搬時の転倒などの災害割合が多くなりました。今後、ヒューマンエラー対策に向けた活動を強化していきます。

さらにグループ全体の安全活動を強化し、プリマハムグループでの労働災害ゼロを目指していきます。

● 生産部門のリーダーが集まって 「KYT(危険予知訓練)研修」を実施

プリマハム(株)の4工場と国内グループ会社の生産部門からリーダーが集まり、年1回「KYT研修」を開催しています。この研修は、“危険の芽”が常に存在することを再確認し、安全・安心のための危険予知訓練を学ぶためのもので、外部講師による講義をはじめ、グループごとのディスカッションや演習などを行っています。

VOICE

危険予知を実践して安全・安心な 職場と商品づくりを進めています

私の業務内容は、ユーティリティ設備の保守管理によって安定した生産体制を構築することです。三交代勤務で夜間は一人作業が主となるため、的確な判断力が必要です。KYT研修に参加して修得した知識は、業務で実践できるので助かっています。

例えば、ひとつの操作ミスが生産する商品の品質や大気・水質などの環境法規制に支障を与えてしまう重要な操作では、作業に対して危険を予知するとともに、操作に対し指差呼称を実行してヒューマンエラーが発生しないように心がけています。

今後も、KYT研修で習得したことをいかして、安全・安心な商品づくりと環境改善に貢献したいと思います。



三重工場 生産技術課
大谷内 隆幸



KYT研修の様子

心身の健康に配慮した 制度・体制を整備

プリマハム(株)は、毎年、従業員を対象に健康診断を実施しています。また、プリマハム健康保険組合では、人間ドック受診、被扶養者の健診受診の費用を補助するとともに、従業員(加入者)向けの広報誌や被扶養者となっている配偶者向けの冊子を配布し、健康増進・健康維持を支援しています。

また、メンタルヘルスケアの強化にも取り組み、産業カウンセラーの有資格者を全国の各事業所に配置し、不安やストレスによる健康問題の予防および早期発見、早期対応に努めています。さらに、外部の専門会社と連携した各種ホットライン、相談窓口を設置し、迅速かつ組織的な対応ができる体制を整えています。

● 産業カウンセラーの有資格者を全国に配置

プリマハム(株)の人事部門に在籍する社員(主に管理職および係長)は、「産業カウンセラー」の資格を取得することを方針として掲げ、推進しています。これは資格取得で得た知識をいかして、不安や悩みを抱えている従業員を早期に発見するためです。

2015年3月末現在、全国の各事業所で23名の産業カウンセラーの有資格者がいます。各カウンセラーは、従業員の相談にあたっては、体調不良などの理由で休職した従業員が復職する際には、各事業所の産業医とともに面談などを実施し、復職に向けて支援しています。

VOICE

働きやすい職場環境づくりに
貢献していきたいと思います

これまで人事部門に所属し、工場や支店などに勤務するなかで多くの従業員の方と接してきました。「十人十色」という言葉がありますが、人によって考え方や嗜好など、それぞれに異なります。ですから一人ひとりの立場で、従業員が抱える不安や悩み、ストレスなどによる健康問題の予防や防止、早期発見をするよう努めています。

これからも従業員が快適に、気持ちよく仕事ができる職場環境づくりに貢献していきたいと思います。



三重工場 総務課
佐藤 睦巳

● 「データヘルス計画」を策定

プリマハム健康保険組合は、2014年度に「データヘルス計画」(2015～2017年度)を策定しました。

2015年度は、健康診断結果をもとに生活習慣病へのリスクを階層化するとともに、従業員に治療や検査を促すことによって健康維持を図っていきます。また、産業医との連携を強化し、従業員との面談などを通じて健康増進を支援していきます。

人権の尊重

「人権の尊重」と「公正な職場づくり」を
行動規範に明記

プリマハムグループは、行動規範のなかで「性別、国籍、年齢、民族、人種、宗教、信条、身体的障がいを根拠とした不当な差別、いやがらせ、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントを根絶し、処遇においては個人の適性、能力を尊重し公平な取り扱いがなされるように努める」ことを明記しています。

また、人権問題に関するガイドラインやマネジメント体制などは「社員就業規則」に記載されています。

● 専門部署を設置してハラスメントを防止

プリマ・マネジメント・サービス(株)(以下、PMS)による「PMSホットライン相談室」を設置し、専門カウンセラーがセクハラ、パワハラなどの相談に乗っています。相談者は、手紙、FAX、電話やメールなどの媒体を通して直接相談・苦情を伝えることができ、その相談によって不利益を被ることがないように、プライバシーを保護しています。

さらにPMSでは、グループ各社における取り組みなどを紹介したレポートなどを発信し、意識と情報の共有を図っています。

● 「パワハラ防止研修会」を実施

国内のプリマハムグループでは、各事業所の従業員を対象にハラスメントを防止するための研修を年1回実施しています。

2014年度は、10月に本社で「パワーハラスメント防止研修会」を開催し、管理職や一般職、パートタイム従業員など、プリマハム(株)から226名、グループ会社から31名が参加しました。今回の研修ではパワハラの深刻度合いを考える事例研究やグループに分かれての意見交換などを行いました。また、11月には社長を含めた役員などを対象にした研修会も実施しました。



パワハラ防止研修会の様子

健全な労使関係

経営の方向性や従業員の
待遇などを意見交換

プリマハム(株)では、年4回(四半期に1回)の「中央労使協議会」や月1回の「各支部労使協議会」、そのほか「賃金専門福祉協議会」「食肉・生産・営業分科会」などの各種協議会を通じて、健全な労使関係を構築しています。

地域社会の一員としてコミュニケーションを図り 積極的に社会貢献活動を行っています

社会貢献指針

良き企業市民として 社会に貢献

プリマハムグループは、行動規範で「『良き企業市民』として積極的に社会貢献活動を行う」という原則を掲げるとともに、「事業を通じた社会貢献」「地域社会への貢献」「従業員による社会貢献活動の支援」を指針として、さまざまな活動に取り組んでいます。

次世代育成の支援

中学生や高校生の 職場体験をお手伝い

プリマハムグループでは、職業観の形成や就職先の選択などにかすことができるよう、中高生対象に職業体験を受け入れています。

プリマ食品(株)では埼玉県吉見町教育委員会が主催している「中学生社会体験チャレンジ事業」に協力しています。2014年11月には地元・埼玉県の中学生2名を招き、3日間の職業体験学習を実施しました。

また、プライムフーズ(株)では同年7月と10月、11月に地元・群馬県の高中生計9名を受け入れました。

体験者からは「働くことのたいへんさや大切さを学ぶことができました」「仕事はチームワークが大切なことがわかりました」などの感想が寄せられました。

今後も、こうした体験学習を通じて次世代の育成に貢献していきたいと考えています。



プリマ食品(株)の職業体験に参加した中学生



プライムフーズ(株)の実習に参加した高校生

各工場では工場見学も受け入れ

ものづくりへの関心を持ってもらえるように、プリマハムグループでは各工場では工場見学も受け入れています。

プリマハム(株)では、2014年5月に北海道工場では地元の高中生を招き、ハムやソーセージの生産工程や品質・衛生管理の現場を見てももらいました。

また、プリマ食品(株)も9月に地元の小学生12名を受け入れ、会社紹介の後、工場を見学しました。



北海道工場を訪れた高校生

VOICE

工場見学を通じて 近隣高校との交流を図っています

生徒たちは普段なかなか見ることができない工場内の様子に興味津々でした。当社の従業員にも元気良く挨拶をし、とてもいい雰囲気で見学ができたと思います。

ただ、生徒たちが最も楽しそうにしていたのは、当工場の製品の試食タイムで、皆さんとても幸せそうにぺろりと平らげていました。



北海道工場 総務課
中村 健太

「食育」への貢献

食育活動が本格的にスタート

プリマハム(株)は、食品メーカーとして子どもたちに「食の大切さ」「食の安全性」を理解してもらうための食育活動を2014年度から開始しています。

当社の食育活動は、大きく2つの活動が中心です。

ひとつ目は、小学校へ当社オリジナルの教材を提供することです。教材は「冷蔵庫をのぞいてみよう!」「保存食のヒミツ」の2種類で、教材をつくるにあたっては、クイズ形式を採用し、先生が使いやすく、小学生が理解できる表現などを工夫しました。

2つ目は、当社の従業員が小学校へ訪問する出前授業です。授業では、実際にハムやソーセージなどの商品を手に取り、体験しながら学べるようにしています。

● 授業でも利用いただける食育教材

「冷蔵庫をのぞいてみよう!」(パワーポイントスライド形式)

身近な「冷蔵庫のなかにある食品」をテーマに、クイズ形式で、食品の正しい保存方法や食品表示の意味、食に関する環境問題などについて学ぶことができます。



「保存食のヒミツ」(冊子形式)

「保存食」のつくり方などを通して、食べ物を無駄なく大切に食べきる知恵と食べ物への大切さを学ぶことができます。



● 東京・大阪の計19校で「出前授業」

食育活動を開始するにあたっては、Webサイトに教材や出前授業の概要を掲載したほか、直接、東京都内と大阪府内の小学校あてにFAXでご案内しました。

その結果、東京10校、大阪9校から出前授業の応募があり、2015年1月までに応募があった全校(計19校・1,117名)で実施しました。授業を受けた子どもたちからは、「実際にパッケージの表示を見ながら賞味期限の話を知

VOICE

“食べることの楽しさ”を広めていきます

子どもたちの大好きなハムやウインナーを題材に、お子さまがお店で商品を選ぶときにどのように選んだら良いのかを楽しく学べる授業となっています。

これからも“食べることの楽しさ”を皆さんに広めていきたいと思えます。「ぜひ、うちの学校でも」とご希望があれば、出前授業へ伺わせていただきます。



営業統轄部 企画課
庄田 武彦

いろいろな回答があって私も楽しんでいます

質疑形式で進める授業は、小学生の生徒さんからいろいろな回答・珍答があり、生徒さんに助けられながら授業を進めることができました。5年生には「冷蔵庫をのぞいてみよう!」を、6年生には「保存食のヒミツ」を授業しましたが、学校の先生からも「知らないこともあって参考になった」と評価していただきました。



東日本支社 業務部
飯田 光弘

けたのでわかりやすかった」「あんなに食品廃棄物があるなんて知らなかった」などの感想が寄せられました。

学校側にも好評いただいたため、2015年度は東京・大阪のほか、仙台や横浜、名古屋などの政令指定都市に活動の範囲を拡大する予定です。



出前授業の様子

うれしい光景を何度も目にしました

「あっ、これ知ってる!と香薫バレエ団の画像を見ての声。「プリマ、プリマ…」と歌う生徒も。出前授業ではうれしい光景を何度も目にしました。

「食育」という大きなテーマのなかの一部分ですが、自分たちのためにもなる当社ならではの活動(コミュニケーション)だと思っています。



茨城工場 総務課
片桐 和則

小学生の生の声を聞くことができました

普段はなかなか一般のお客さまとじかに接する機会はないのですが、今回、講師として小学生の生の声を聞くことができ、たいへん良い経験となりました。

一部の学校ではハムの試食もしてもらったのですが、子どもたちの「おいしい」という声を聞き、改めて安全で安心な商品を届けていきたいと思いました。



品質保証部 品質保証課
笠巻 さやか

地域活性化への貢献

各地の工場で納涼祭などを実施

プリマハムグループでは、各地の工場を地域の方々開放して納涼祭を実施し、地域の活性化に貢献しています。

プリマハム(株)の茨城工場では、8月23日に工場内グラウンドにおいて納涼祭を開催し、2,000名を超える地域の方々にご来場いただきました。当日はダンスや和太鼓、歌謡ショーなどが催されたほか、従業員がハムやベーコン、焼きそば、豚の丸焼きなどを出店し、開始2時間で売完となりました。

加工食品を製造する秋田プリマ食品(株)も同日に38回目となる「秋田プリマ食品納涼祭」を開催し、1,000名以上の地域の方々をお招きしました。会場では黒毛和牛骨つきモモ丸焼きやローストポークなどの模擬店を出店したほか、以前から交流のあるご当地グルメ「本荘ハムフライ」の「本荘ハム民の会」やその応援団「本荘ハムフラダンスーズ」の皆さまも参加し、納涼祭を盛り上げていただきました。

VOICE

地域の方々によるショーと模擬店で大いに盛り上がりました

茨城工場は、お客さまや地域の皆さまへの日頃の感謝を込めて納涼祭を開催しました。

ステージ上では、地域の方々によるさまざまなショーが繰り広げられたほか、土浦市のイメージキャラクター「つままるくん」をプレゼンターに抽選会を催すなど、大いに盛り上がりました。

また、工場で製造しているロースハムやベーコン、ウインナーを中心に、焼きそばやアイスなどの模擬店を出店しました。普段、私たちがつくっている商品を「おいしい!」と喜んでくださる姿は、とてもうれしく、そして誇らしく、今後も「もっともっとおいしくて安全・安心な商品を提供していかなければ」と改めて感じました。



茨城工場 総務課
日詰 直樹

地域のイベントに参加

プリマハム(株)では、2014年9月13、14日にさいたまスーパーアリーナで開かれた埼玉版ウーマノミクスプロジェクトの取り組み「SAITAMA Smile Women フェスタ」に出展しました。これは女性の多様な働き方などをテーマにしたイベントで、113の企業・団体が出展し、2万人以上が来場しました。当社も女性がより輝くための生き方の提案や、それをバックアップする商品・サービスを紹介しました。また、鹿児島工場では所在地であるいちき串木野市で開催している「地かえて祭り」や「さのさ祭り」に毎年参加しています。

また、秋田プリマ食品(株)では9月7日に開かれた由利本荘市教育委員会主催の市民ボート大会「子吉川レガッタ」に男女各2チームずつ計20名の4艇が出場しました。今年で35回目を迎え、地域の方々にとっては秋の訪れを告げる風物詩として定着しています。



茨城工場の納涼祭



秋田プリマ食品(株)の納涼祭



SAITAMA Smile Women フェスタ



さのさ祭り



市民ボート大会「子吉川レガッタ」

海外での社会貢献

タイの2社がマングローブを植樹

2015年6月7日、プリマハムタイランドとプリマハムフーズタイランドは合同でタイ東部のラヨン県バンパーでマングローブを植樹しました。

今年で3回目となるプリマハムタイランドは251名、今回初めての活動となるプリマハムフーズタイランドは60名、総勢311名が参加しました。当日は、植樹の会場に到着後、森林資源の大切さ、植樹活動についての説明を受け、1人2本ずつマングローブを土に植えました。

好天にも恵まれ、皆さん汗をかきながらの植樹活動となりました。今後も植樹活動を通じて、社会貢献や地域貢献を進めていきます。



マングローブの植樹風景(タイ)

環境美化への貢献

事業所周辺地域を清掃

国内のプリマハムグループでは、全国各地の環境美化イベントへの参加や事業所周辺の清掃活動などを通じて、地域の環境美化への貢献に努めています。

プリマハム(株)茨城工場では、2014年7月と2015年3月に地元で開催された「霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」に参加。各回とも従業員とその家族を含め約100名が参加し、花室川河川敷や茨城工場の近隣地域で空き缶や空きびん、その他のごみを回収しました。

また、北海道工場は、2014年5～10月まで実施された北海道全道民を対象にした全道一斉ごみ拾い「ラブアース・クリーンアップ in 北海道 2014」に参加しました。冬季をのぞく約半年の期間中、毎月1回、従業員約20名が参加し、工場周辺地域を清掃しました。

さらに鹿児島工場では、月2回、工場周辺地域の清掃を実施しているほか、2014年7月にはいちき串木野市主催の「海の日海岸クリーン作戦」にも参加しました。

グループ会社でも、プリマ食品(株)が「市野川クリーンアップ作戦」に参加するなど、環境美化活動に積極的に参加しています。



「霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」(茨城工場)



「ラブアース・クリーンアップin北海道」の参加証



「海の日海岸クリーン作戦」(鹿児島工場)

植林・森林保全への貢献

「プリマハムの森林(もり)づくり」で 森林を育成

プリマハムグループは、2006年から「プリマハムの森林づくり」として埼玉県の森林保全活動を推進し、プリマ食品(株)の従業員が中心になって間伐作業などを行っています。2014年度の活動実績は、CO₂吸収量41.1トン-CO₂/年と認証されました。この実績は人間の呼吸によるCO₂年間排出量に換算すると、128人分に相当します。

そのほかにも、北海道工場では清水町林業推進協議会主催の植樹祭「しみずグリーンフェスティバル」に従業員ら37名が参加し、清水町町有林0.2ヘクタールにエゾヤマザクラなど8種類の苗木300本を植樹しました。また、秋田プリマ食品(株)では、本荘水源の森育成会主催の育林活動に参加し、1998年に植樹された「クロエンジュ」の枯れ枝落とし作業を実施しました。



プリマハムの森林づくり

NPOの支援

国連WFP協会を継続支援

プリマハムグループでは、飢餓で苦しむ子どもたちに給食を届けるための「レッドカップキャンペーン」(主催:国連WFP協会)に2012年度から協力し、「直火焼ハンバーグ288g(4個)」を1パックお買い上げいただくごとに1円を寄付しています。2013年度も売上げの一部(100万円)を国連WFPに寄付し、2014年5月に感謝状を授与されました。また、2014年度は、「香薫あらびきミニステーク」を対象商品として、引き続き、売上げの一部(100万円)を寄付しています。



松井社長と国連WFP協会
関口事務局長(右)

日本赤十字社より金色有功章を受章

プリマハム(株)は、2014年10月に日本赤十字社から金色有功章を受章しました。これは日本赤十字社の行う事業に貢献した個人・企業などに贈られる章で、当社の永年の功績が認められたものです。

今後も当社は日本赤十字社の活動主旨に賛同し、その事業発展に協力していきます。



Topic チャリティウォーク 「WFPウォーク・ザ・ワールド」に参加

プリマハムグループは、国連WFP協会が主催する「WFPウォーク・ザ・ワールド」に2014年から協賛しています。「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、途上国の子どもたちの飢餓をなくすチャリティウォークで、参加費の一部は国連WFPの学校給食プログラムに役立てられます。2015年度はプリマハム(株)の従業員やその家族も参加しました。チャリティウォーク参加者



VOICE

子どもたちの未来の糧になるよう 継続的に応援していきたいと思います

日頃、運動不足な私はスニーカーを新調し、気分十分で当日を迎えました。曇天のスタートとなりましたが、次第に青空が広がり、5月の爽やかな風を感じながら歩くことができました。

わずかながらもチャリティ活動に貢献したという充実感と参加者全員が10kmを完歩したという爽快感!また、来年も参加したいと思います。子どもたちの未来の糧になるよう、継続的に応援していきたいと思います。



総合企画室
妻鹿 美那子

低炭素社会 循環型社会 自然共生社会を目指した 環境経営を進めています

環境活動の重点課題

環境保全などの「CSR重視の経営」を 中期経営計画の主要テーマに設定

プリマハムグループは、今後3年間の経営課題・経営目標を定めたローリングプラン(中期経営計画)のなかで、「CSR推進・環境保全、法令順守」を経営の主要テーマとして掲げ、社内外に明示しています。

このうち環境側面の重点課題については「環境マネジメント重点課題一覧表」(右図)にテーマごとにまとめています。さらに、社長が委員長、社内の全取締役が委員を務める「全社環境委員会」(年1回春に開催)で、各課題を社会的な影響度や当社グループの取り組みをもとに見直しているほか、数値化できる課題は年度ごとに継続的な改善が進むよう具体的に数値目標を掲げるようにしています。これらを全社環境委員会で決定することで、全役員が環境への意識を高め、進捗の確認にも積極的にかかわる仕組みをつくっています。

● 改善の指標に生産数量原単位を採用し 各事業所の取り組みを比較

テーマごとの重点課題で示している環境負荷の低減策については、プリマハムグループの各事業所に数値目標を示し、実行しています。数値目標の設定に関しては製造業で一般的に使われる「生産数量原単位」を取り入れ、当社グループの取り組みを横断比較できるように2013年度から変更しています。

また、地域貢献や生物多様性に関する活動については

環境管理部が主体となり、ISO 14001の認証サイトと連携しながら推進しています。

現在、プリマハムグループは、製造工場10拠点と本社・近畿センターの計12拠点でISO 14001の認証を取得しており、具体的な改善活動を継続的に実施しています。また、2015年度からタイ・中国などの海外事業所の環境負荷改善や各サプライヤーへの環境配慮調査、工場で大量に使用後排出する排水の水質改善策などに順次取り組みます。

環境マネジメント重点課題一覧表(抜粋)

環境側面の重点課題		取り組み内容
廃棄物	製造工程からの廃棄物発生	工程廃棄物の極小化
	商品販売に伴う廃棄物の発生	商品包装の軽量・薄肉化および包装素材の見直し
エネルギー・水	オフィス部門でのエネルギー使用	エコオフィス手順書に基づく省エネルギーの推進 環境設備投資(LED照明導入など)の推進
	製造工程でのエネルギー使用	工程を見直し、設備の省エネルギーを推進
	製造工程での水使用	工程を見直し、設備の水使用量を削減
	上流・下流の環境負荷	養豚・養牛・養鶏における排泄物からのメタンガス発生量低減 物流におけるCO ₂ 排出量削減
コンプライアンス	工場排水の発生	設備管理による適正水質での排水
	緊急事態・事故対応	受入時、保管時の油類の流出防止 屋外保管薬品の流出(タンクなど)防止
	環境法令順守	老朽化設備の計画的改修・新設 環境法令の順守(日常管理) 養豚・養牛・養鶏場の環境管理の促進(悪臭、排水、騒音など)
生物多様性	工場排水による水生生物減少	排水水質の改善への取り組み
環境経営	環境技術の研究	排水の負荷低減と有効利用(リン回収など)
		生ゴミ処理用微生物の研究
	環境コミュニケーションの拡充	地域環境活動への参画
		環境広報の検討 環境情報の積極的開示「社会・環境報告書」「Webサイト」 日経環境経営度調査スコアUP

● グループ会社の取り組み事例

<プライムデリカ(株)>

2014年度から国内の環境規格「エコアクション21」を取得するための取り組みを開始しました。今後、2015年度から3年間で11事業所全てで「エコアクション21」の認証取得を推進していきます。

プリマハムグループ環境方針

プリマハムグループは、「健康で豊かな食生活を創造するために安全・安心な商品を提供し、社会と食文化に貢献していく」という基本的な考えのもとに事業展開しています。

食品企業である私たちは、製品原材料の多くを自然の恵みから享受しており、その豊かな自然環境を次世代へ継承する責任があります。

地球環境保全は経営の最重要課題のひとつであると認識し、持続可能な社会の実現に向け、以下の行動指針に基づき、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境経営を推進します。

【行動指針】

- あらゆる事業活動において、エネルギー・水資源の有効利用および廃棄物の削減・再資源化等、環境負荷の極小化に取り組みます。
- 開発・設計から原材料の調達・製造・物流・販売・廃棄にいたるまでのライフサイクル全体を考慮し、環境負荷低減に寄与する製品・サービスの提供および技術の研究に努めます。
- 関連する環境法規制等を順守することはもとより、自主管理基準を設定し、環境リスクの未然防止に努めます。
- 良き企業市民として、地域社会との共生に配慮した事業活動を行うとともに、環境保護活動に積極的に参加します。
- 環境情報を広く適切に開示し、社会とのコミュニケーションをはかります。
- 従業員の環境意識の向上を目的として、環境教育を継続的に実施します。

おもな環境目標

環境方針	環境目的	取り組み指標	単位	対象範囲	2014年度 目標	2014年度 実績	評価	2015年度 目標	3ヶ年到達 削減率
エネルギー 使用量の削減	製造工程の エネルギー削減	エネルギー使用量原単位 (原油換算値/生産数量)	ℓ/トン	10工場*1	407 ▲4%	343 ▲21%	○	398	2012年度比 ▲6%
	オフィスの エネルギー削減	電力使用量	千kWh	オフィス*2	2,320 ▲12%	2,318 ▲12%	○	2,259	2012年度比 ▲14%
	物流における CO2排出量削減	エネルギー使用量原単位 (原油換算値/取り扱い数量) ※省エネ法報告数値	ℓ/トン	物流車両	6.44 ▲10%	5.81 ▲19%	○	6.44	2012年度比 ▲10%
廃棄物 排出量の 削減	製造工程から 排出される 廃棄物の削減	食品廃棄物の廃棄率低減 (廃棄物量/原材料仕入量)	%	10工場*1	2.7 ▲1%	2.2 ▲18%	○	2.6	3ヶ年で ▲5%
		廃プラスチックの廃棄率低減 (廃棄物量/生産数量)	kg/トン		22.3 ▲5%	23.7 +1%	×	21.2	3ヶ年で ▲10%
水使用量の 削減	工場の水使用量 (井戸水、上水道) 削減	水の使用量原単位 (水使用量/生産数量)	m ³ /トン	ハムソーセージ 4工場*3	22.4 ▲6%	21.6 ▲10%	○	21.8	2012年度比 ▲9%
			m ³ /トン	加工食品 6工場*4	29.2 ▲2%	24.8 ▲17%	○	28.7	2012年度比 ▲4%

*1 プリマハム(株)生産拠点4工場、秋田プリマ食品(株)、プリマ食品(株)、プライムフーズ(株)、四国フーズ(株)、熊本プリマ(株)、プリマルーケ(株) *2 プリマハム(株)品川本社、近畿センター

*3 プリマハム(株)生産拠点4工場 *4 秋田プリマ食品(株)、プリマ食品(株)、プライムフーズ(株)、四国フーズ(株)、熊本プリマ(株)、プリマルーケ(株)

廃棄物排出量の削減

製造の工夫で食品残さを削減

工場に入荷したすべてのお肉・食品をムダなく製造するのは、食品会社の使命です。しかし、異物除去のために設備を洗浄する際の肉片や生産ラインから外れた肉片などは、食品残さとして廃棄しなければなりません。

プリマハムグループでは、こうしたムダを少しでも改善するために、製造のスケジュールを工夫して設備の切り替えを極力なくすようにしているほか、運搬作業や容器に移し替える際に商品が落下することを抑えるために、設備の配置を工夫したり、一連のラインに組み替え、工程歩留の向上と食品残さの低減につなげています。

また、洗浄前に機械や容器内に残る肉片を事前に取り除くことで食品残さの発生を抑制するとともに、洗浄が容易になり、使用する水を減らす取り組みをしています。

● グループ会社の取り組み事例

<プライムフーズ(株)>

「衣づけ商品に使用するパン粉の規格を統一し、規格数を3割削減」「搬送中にこぼれたパン粉を受け皿に受けて再利用」「従業員意識の向上」などによって、パン粉の使用量と廃棄量を削減しました。

<プリマ食品(株)>

油調理品に使用した廃食用油の不純物を取り除き、一部を有価売却したことで廃油の廃棄率を削減しました。

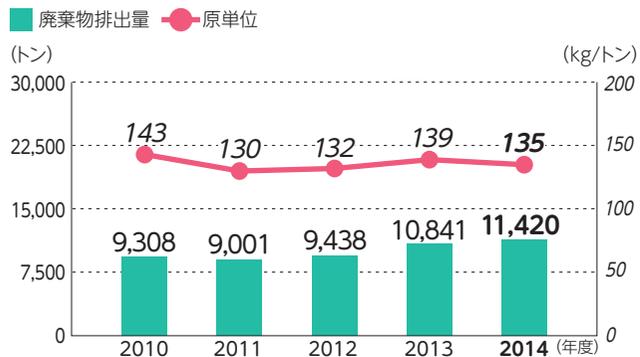
原材料包装資材から出る 廃プラスチックを削減

原材料包装資材などの廃プラスチックについては、リサイクルできるものを選別して売却することで、廃棄量を削減しています。また、包装不良や包装のやり直しの低減、冷蔵保管用のビニールシートのサイズ見直しなど、プラスチックの使用量削減に向けた細かな対策も講じています。

2014年度の廃プラスチック排出量は、目標の生産量原単位22.3kg/トンに対し、23.7kg/トンで目標に届きませんでした(目標比101%)。その原因として、残さなどが付着した原料肉の梱包ビニールが洗浄手間やコスト面から有価引取りできていないことがあげられます。

今後は、残さなどの付着した廃プラスチックは洗浄・破碎など自前処理し、処理委託先でリサイクルできるように検討していきます。

年度別廃棄物排出量(10工場)



● グループ会社の取り組み事例

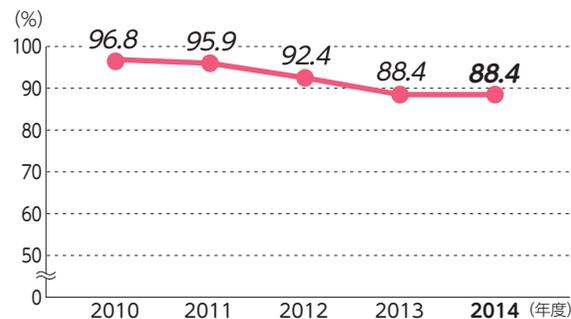
<秋田プリマ食品(株)>

生産性を向上させるため、春巻き製造ラインを連続ラインに改善しました。これによって環境側面にも効果を発揮し、一時保管に使用していたプラスチックのかごが不要になったほか、補充の必要や破損がなくなった分、購入・廃棄が不要となり、工場全体で8.7%廃棄率を改善しました。

<プライムデリカ(株)>

2013年12月に相模原、2015年3月に関西にエコセンターを開設しました。工場から出る野菜くずなどの植物性残さを圧縮・脱水することで約90%を減容し、食品廃棄物の排出量の削減を図っています。また、脱水処理した植物性残さは堆肥化してリサイクルの流れを構築しています。なお、2015年12月には東海地区にもエコセンター開設を予定しています。

年度別リサイクル率(10工場)



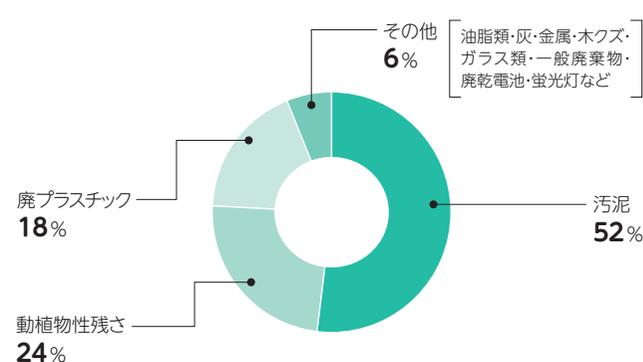
Topic

排水処理場から発生する汚泥を削減

工場から出た排水は浄化し、環境に適合した排水として河川などに放流します。しかし、浄化処理の際に生物処理した微生物は汚泥となって廃棄されます。汚泥には、窒素分やリンが含まれ、多くは堆肥などの肥料としてリサイクルされません。茨城工場では汚泥の全量を真空乾燥し、普通肥料の「プリマ菌体肥料」として肥料業者へ販売しています。



2014年度 廃棄物排出量内訳(10工場)



エネルギー使用量の削減

生産ライン見直しによる エネルギー効率の向上

製造工程のムダとエネルギー使用量を減らすために、プリマハムグループでは自動化設備を導入するとともに、積み替え作業の削減や設備更新・改造によって処理能力を増強しています。さらに作業者一人あたりの生産性を向上させるなど、生産ラインの処理スピードを上げる取り組みにも注力しています。また、老朽化した設備を効率的なものに更新しているほか、LED照明の設置も進めています。

2014年度は、6台のエアーコンプレッサーを使用している茨城工場で、1台を負荷変動に対応できるタイプに変更するとともに自動制御を採用しました。その結果、全体の稼働時間を20%削減できました。また、三重工場ではボイラーの老朽化に伴って大型ボイラーを中型ボイラー4台による台数制御方式に変更しました。昼・夜の負荷変動が大きい工場には台数制御が大きな効果をもたらし、20%の

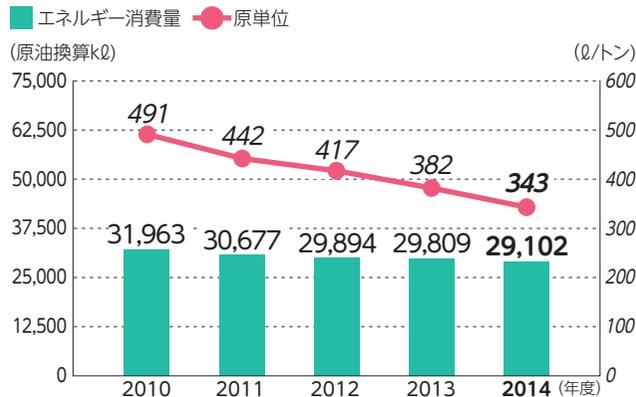


三重工場では4台の中型ボイラーによる台数制御方式を採用

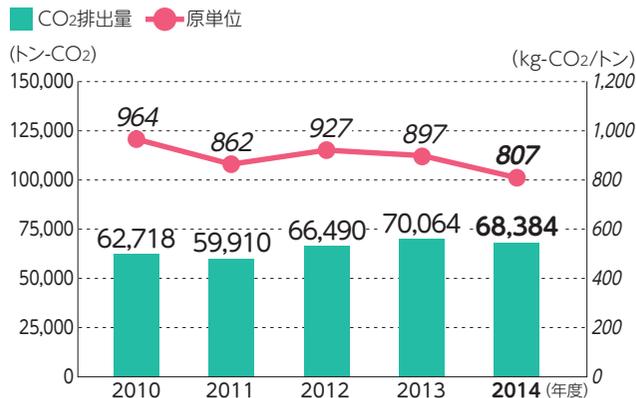
燃料削減に寄与しました。さらに、プライムフーズ(株)の老朽化した焼却炉を2015年1月以降使用停止したことでエネルギー消費量の削減に寄与しています。

これらの取り組みによって、エネルギー原単位407ℓ/トンという目標に対し、実績値は343ℓ/トン(目標達成率118%)となりました。

年度別エネルギー消費量(10工場)



年度別CO₂排出量(10工場)



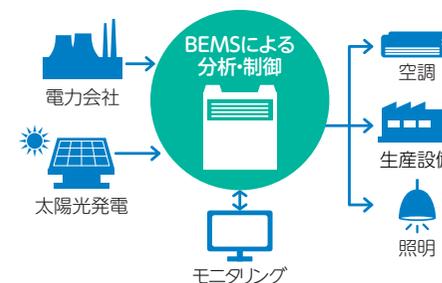
Topic

BEMSを導入し、設備類を監視・管理 ＜プライムデリカ(株)＞

プライムデリカ(株)では、6工場(相模原、厚木、龍ヶ崎、枚方、宗像、宮崎)にBEMS※(Building Energy Management System)を導入することで、エネルギーの使用量削減を図っています。

工場内で使用されている機器や設備を監視・管理して省エネ制御を一元化することで、使用するエネルギーを従来よりも約15%削減を目標に活動しています。

BEMSの概念図



※BEMS:ビルエネルギー管理システム。工場やオフィスなどで使用されている機器や設備のエネルギー使用状況を監視・管理し、全体の省エネ制御を一元化するシステム

物流(輸送)段階での エネルギー使用量の削減

プリマハム(株)は、省エネ法の特定荷主に指定されており、輸送に掛かるエネルギーの削減に努めています。

2014年度は、輸送で使用した年間エネルギー量は3,733kl(原油換算値)となり、前年度比で6%増加しました。主な要因は、商品輸送の取り扱い数量が大きく増加(前年度比111%)したことがあげられます。

しかし、取り扱い数量1トンあたりのエネルギー原単位で評価すると、前年度から4%改善しています。このように商品の共同配送の継続や主要幹線便に物流ルートを集中し、より効率的な輸送を推進した結果、年々原単位は良くなっています。

● 自社輸送から委託輸送に切り替え

プリマハム(株)では、ここ数年、自社商品を全国の営業所からトラック配送する従来のスタイルから、商品輸送そのものを物流専門業者に委託する取り組みを進め、自社輸送を減らしています。

自社輸送を減らすことが可能になった背景には、お取引先様の物流センター拠点が増え、センターへ直接納品することが増えたことがあげられます。

今後もサプライチェーンやロジスティックの環境変化にあわせ、積載効率の良い配送に切り替えています。

営業車両における燃費改善

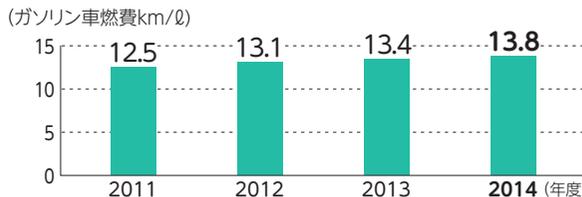
2011年度から営業車両に走行距離や燃料消費量、CO₂排出量などを計測する車載装置(テレマティクスシステム)を導入しました。これによって車両ごとの走行距離、燃料消費量などの走行データを取得・蓄積し、それをもとに運転者への個別指導を行うことで、事故防止、燃費改善に努めています。

併せて、年2回のエコドライブ推進キャンペーンを実施し、キャンペーン期間中にエコドライブ基準を満たした従業員には達成賞を授与しています。年々達成者も増え、エコドライブに対する従業員の意識が進み、燃費向上にも効果を出しています。2014年度は、キャンペーン参加者が496名で達成率は42.9%と増加しました。

輸送エネルギー量の推移



年度別営業車両燃費(年平均)



水使用量の削減

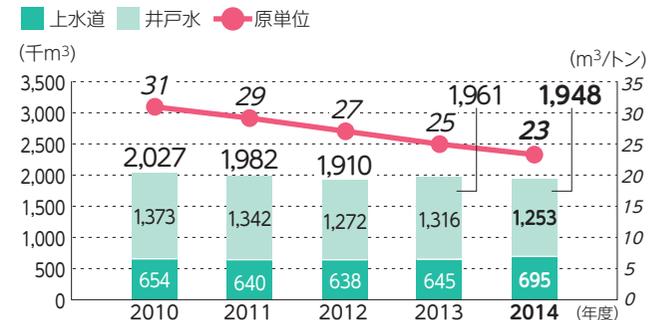
生産ラインの工夫で水使用量を削減

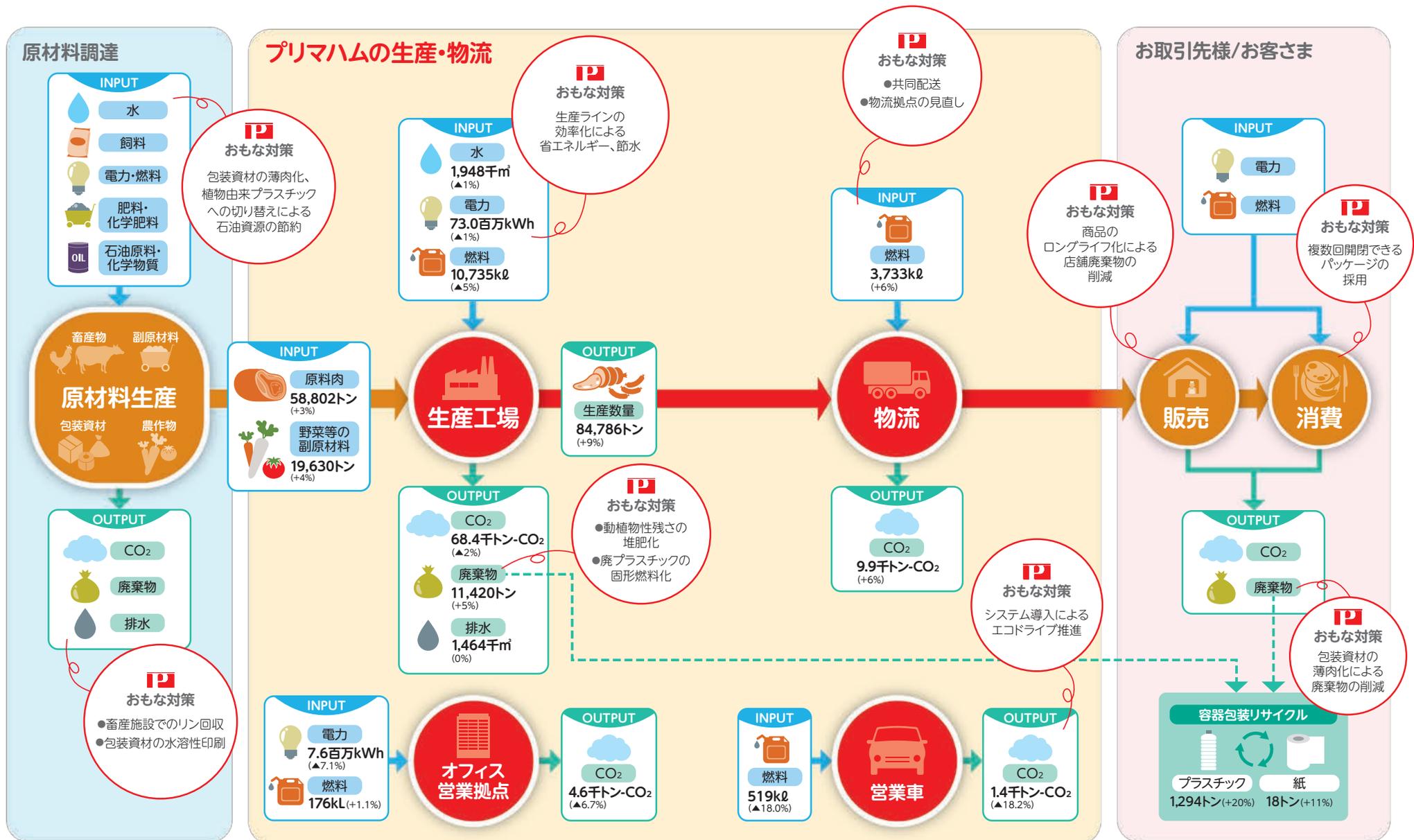
大型の冷凍・冷蔵倉庫が数多くあり、その冷却装置では大量の水を使用しています。その水の使用量を極力抑えるために、さまざまな工夫をしています。

例えば、茨城工場では老朽化していた冷凍機の凝縮冷却装置を整備することで月間200トン以上の水使用量を削減しました。また、プリマ食品(株)では、ラインの構成を見直して改善を進めた結果、連続冷却装置を1ライン停止させることが可能となり、エネルギーや水使用量の削減に大きく貢献しています。そしてプライムフーズ(株)では、肉の解凍方法を改善した結果、冷水チラー装置の稼働が不要となり、工場全体の水使用量を2%削減できました。

こうした取り組みの結果、2014年度の水使用量原単位は、ハム・ソーセージ4工場で21.6m³/トン(目標達成率104%)、加工食品6工場で24.8m³/トン(目標達成率118%)となり、目標を大きく達成しました。

年度別水使用量(10工場)





※カッコ内数値は対前年度比

※データの対象範囲は、プリマハム(株)本社・営業拠点6支店26営業所・生産拠点4工場・物流センター4ヶ所・研究機関2ヶ所、秋田プリマ食品(株)、プリマ食品(株)、プライムフーズ(株)、四国フーズ(株)、熊本プリマ(株)、プリマルーテ(株)

商品・サービスにおける環境配慮

「社内自主基準」に沿って環境負荷の少ない商品を開発

プリマハムグループは、これまで定義のなかった「環境対応商品」の考え方を体系化し、2005年を基準年とした「社内自主基準」を2014年7月に策定しました(右表)。

この社内自主基準に沿って、容器(パック)材料のプラスチックやダンボールの使用量削減をはじめ、印刷のインクへの環境配慮、商品の工夫によって家庭での環境負荷を抑制できる商品など、より環境負荷が少ない商品開発に向けた取り組みを進めています。

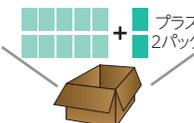
とくに、プリマハムグループが製造する商品の容器包装は、ギフト化粧箱などに一部、紙製容器が使用されていますが、大半がプラスチック素材を使用しています。今後は、包装材量の使用が少ないパッケージを採用するように工夫をしていきます。

また、商品輸送に使用するダンボールも、ダンボールメーカーでの再生紙利用率が高く、環境配慮が進んでおり、プリマハムグループでは、ダンボール使用量を削減するため、適正なサイズへの見直しや梱包効率を上げることに注力しています。2014年度は、ダンボールの入数の見直しによってダンボールの使用量を11.1%削減できました。

環境対応商品 該当基準

容器包装に関するもの	省包材	フィルムの薄肉化
		サイズ軽量化
		ノントレイ化
	外箱(段ボール)のサイズ・入数の見直し	
包装資材のVOC削減	水溶性印刷の活用	
	溶剤使用量の削減(接着剤の有機溶剤不使用、等)	
非プラスチック包材の活用	植物性包材の活用	
	無機系樹脂の活用	
フタピタ(リシールフィルム)機能の活用		
ノンセパレートラベルの活用		
箱包材への再生紙利用		
商品特性に関するもの	調理における省エネ	自然解凍可能商品への切り替え
		常温保存可能商品への切り替え
	廃棄物削減	可食ケーシング使用
調理器具不使用による環境保全		

1ケースに入れるパッケージ数を変更



従来は1ケース10パック入れていたものを12パック入りに変更

水溶性印刷の採用



商品の包装資材を印刷する過程で発生する揮発性有機化合物(VOC)を削減するため、水溶性インキへの切り替えを推進

可食性ケーシングの利用



カルパス・サラミなどのドライ商品で、そのまま召し上がれる皮(ケーシング)の新製法を採用し、お客さまのごみを削減

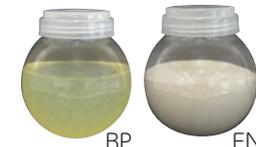
Topic

環境浄化微生物を開発・提供

プリマハム(株)基礎研究所では、社会全体の環境への負荷低減に向けた取り組みとして、各種環境浄化微生物を開発し、提供しています。

● 生ゴミ処理用微生物BP、FN

食品工場などから排出される有機性廃棄物(生ごみ)を効率的に分解する微生物。食品工場や商業施設などから排出される生ごみを減量化するために利用されています。



● 排水処理用 油脂分解微生物YB

排水処理施設などにおける排水中の動植物性油脂を効率的に分解する微生物。外食チェーン店や食堂のグリストラップの廃棄油脂の減量化や悪臭の低減に利用されています。



環境監査

2つの監査を併用し チェック機能を強化

2013年9月に環境方針を変更したことに伴い、内部監査手法も変更し、サイト内で内部監査員資格を持つ従業員による「サイト内監査」と、環境管理部が全国のサイトを監査する「全社監査」を併用しています。

「サイト内監査」は、内部監査員が監査内容を事前に決め、監査チェックシートを作成して行うもので、内部監査員自身の主体性が向上したほか、実態を知ったうえで具体的な指摘が増えています。また、監査基準として新しく設けた「改善提案」も積極的に出され、環境意識が向上しているという効果が出ています。

一方の「全社監査」では、各サイトの環境管理責任者の関与・目的目標の進捗、マニュアル変更後の理解度を確認するとともに、環境施設の日常管理や法令順守状況、サイト内監査で指摘された事項なども確認しています。

● 2014年度の内部監査の結果

「サイト内監査」は、ISO 14001の認証を取得している全部署(12サイト・68部署)で実施しました。その結果、廃棄物処理法で定められたマニフェストの返却期限を超過するという重大な不適合が1件ありました。

「全社監査」は計画していた4サイトに加え、2013年度に排水処理施設の漏えい事故と食用油タンクの危険物の保管管理に関する重大な不適合が発見された2サイトを追加して実施しました。その結果、軽微な不適合6件を含む

17件の指摘が出ましたが、緊急を要する事案はありませんでした。

● 内部監査員を対象に「スパイラルアップ研修」を実施

事業所内の内部監査員数の不足や新しい監査方法への対応のために、2014年8月に新たに内部監査員18名を養成しました。これによって内部監査員は計115名(2015年2月末現在)となりました。

内部監査員に対しては毎年「スパイラルアップ研修」を実施しており、2014年度は研修のカリキュラムに「環境経営・生物多様性」の要素を盛り込みました。なお、この研修は内部監査員のレベルに応じて研修内容を変更しており、より実践的なスキルを身につけられるようになっています。

廃棄物処理管理の強化

廃棄物はマネジメントすべき項目が多く、廃棄物処理委託業者の現地確認でも一定の知識が必要とされます。

そこで、専門コンサルタントを管理窓口に据えらるとともに、廃棄物処理委託業者の現地確認にも同行していただき、許可証や処理施設の点検書類が適切にファイル管理してあるか、施設の処理能力が基準を超えてないか、処理前の廃棄物保管状態が乱雑でないかなど、確認すべきポイントを学んでいます。2015年度には、廃棄物担当者が独自で委託業者の現地確認をできるようマニュアルを整備する予定です。

このほか、ISO 14001認証取得サイト以外の営業支店で廃棄物に関する教育を実施しているほか、物流・営業所

などの非生産拠点の廃棄物実態調査を計画しています。

● 堆肥センターを現地確認

鹿児島工場では、排出している汚泥を処理していただいている堆肥化施設を監査。工場の廃棄物管理責任者とコンサルタントが同行し、堆肥への処理状況や施設の周辺環境について不具合や環境影響がないかを確認しました。



鹿児島工場では
堆肥センターを監査

Topic

廃棄物情報を一元管理できる 「廃棄物管理システム」を導入

廃棄物管理に必要なマニフェスト交付業務をシステム導入によって一元管理。下記項目について、システム上で書類漏れ、有効期限のチェックを実施し、確実に廃棄処分が行われているか、処分完了までのフローはどうかを確認しています。

- マニフェスト回収管理
- 委託業者の管理
- 監査記録の掲載

環境意識の向上を目的に 環境教育を継続的に実施

プリマハム(株)では、従業員の環境意識向上のために継続的に環境教育を実施しています。

12サイト3,200名を対象とした「一般教育」では、年1回独自の資料で教育を実施し、各種のマニュアルや手順書を説明したほか、プリマハムグループの環境方針・取り組み目標を確認しています。

また、環境への影響が大きいと特定された業務に従事する人を対象とした「特定教育」では、年1回各サイト内で特定業務従事に対する手順教育や緊急時の対応などを教育しています。また、従事に必要な公的資格は計画的に取得を行っています。

そのほか、各拠点で緊急時を想定した模擬テストも実施しています。

環境リスクへの対応

2014年度の環境法令違反と環境事故

2014年度は、大井町事業所において法令で定められた産業廃棄物のマニフェスト回収期限に気づかず、そのまま超過してしまったという法令違反が1件ありました。内部監査において発覚しました。原因を究明したところ、当社の担当者とビル管理会社の担当者の確認不足が原因だったため、速やかに処理しました。再発防止として管理会社との契約の見直し、2015年6月に管理会社の選定と廃棄物収集ルールの再徹底を完了しました。

「環境法令違反ゼロ」を目指して さまざまな施策を展開

プリマハム(株)は、全社の環境委員会のほかに、各拠点で環境委員会を年4回開催しており、2014年度からはこの委員会に議長として各工場長、支店長、各グループ会社社長が参加しています。これによって意思決定のスピードが上がり、各施策を通じた改善の効果が見え始めています。

また、2012年度からは関連法令の見落としを防ぐために「環境法令チェックシート」を導入しており、これまでの運用面の不具合を改善して、定期点検や人事異動による届出の抜けを防ぐなど、法令順守の強力なツールになっています。

PCBの保管と処分

有害物質であるPCB(ポリ塩化ビフェニル)を含む機器については、台数を把握し、適正に管理しています。高濃度PCBについては、公的な処理施設である日本環境安全事業(株)への処分登録を行い、同社の処理計画に基づいて順次処分を実施しています。

2014年度は、高圧コンデンサ計13台(200KVA 1台、100KVA 10台、75KVA 1台、30KVA 1台)を処分しました。高濃度PCB設備は、2014年度で処分を完了したほか、低濃度は引き続き現状運用を継続しています。

化学物質の適正管理

品質管理業務や工場内の洗浄、排水処理などで、化学薬品を使用しています。それらについてはSDS(安全データシート:Safety Data Sheet)を入手し、化学物質の適正管理に努めています。

また、フロンガス、塩化第二鉄を使用している事業所がありますが、これらPRTR法(化学物質排出把握管理促進法)に該当する化学物質は、法令に基づいて廃棄・排出の移動量の集計・届出を行っています。

Topic

「企業の環境経営度調査」に参加

日本経済新聞社が実施する第18回「環境経営度調査」に回答しました。プリマハム(株)は、2013年度から本調査に参加し、今回2回目の回答となります。これによってプリマハムグループの環境経営について、環境対策や経営効率などの程度をすすめているのかを他社と比較することができ、客観的な評価結果として参考にしています。

本調査の結果

	2013 年度	2014 年度	差異	製造業(食品) 平均スコア
スコア	226	229	+3	
順位	36	35	+1	

*スコアは500満点

*順位は、製造業(食品) 43社中

グループ会社における環境への取り組み ＜プリマハムタイランド社＞

日本の工場と同レベルで 環境活動に取り組んでいます

プリマハムグループのタイにおける主要生産拠点のプリマハムタイランドは、品質管理だけでなく、環境保全にも積極的に取り組み、日本の工場と同レベルでの環境活動を実施しています。

● 使用しなかったキャベツの葉を 飼料としてリサイクル

ロールキャベツ生産で、受入時のキャベツの外側の葉（鬼葉）は人の手で取り除き、廃棄処分せずに魚の養殖場の飼料としてムダなくリサイクルしています。

また、加工工程で発生するお肉やかんぴょうなどの原材料の端材も廃棄せず、魚の養殖場でリサイクルされています。



一つひとつ人の手で
キャベツの葉を除去



キャベツの端材は飼料としてリサイクル

● 太陽熱回収装置を導入し 省エネルギー活動を推進

熱帯地域であるタイの気候をいかし、プリマハムタイランドでは太陽熱回収装置を設置しています。

これは回収した熱エネルギーで温水を製造するというもので、調理加温や洗浄などに使用しています。



屋根の上に設置された太陽熱回収装置

● 遮熱塗装を利用し 部屋の温度上昇を防止

外気温の高さへの対策として、プリマハムタイランドでは工場棟の屋根すべて（6,935m²）に遮熱塗装を実施しました。汚れのつきにくいシリコントップコーティング塗装を施した結果、建物内で利用する冷房空調のエネルギー削減に結びついています。



シリコントップコーティング塗装

Topic

プリマハムタイランドの 環境活動や社会貢献活動の功績を タイ政府が評価

プリマハムタイランドは、これまで取り組んできた環境活動や社会貢献活動が評価され、タイ工業省が主催する「CSR DIW Continuous Award 2014」(地域社会に貢献した企業に贈られる賞)を受賞しました。

また、プリマハムタイランドの保安・安全活動に対しても、その功績が評価され、タイ労働省から「安全工場」の表彰をいただきました。



CSR DIW Continuous
Award 2014



安全工場

環境パフォーマンスデータ

ISO 14001認証取得箇所(2014年度)

事業内容	箇所名	所在地	生産数量(トン)	
ハム・ソーセージの製造	プリマハム(株)	北海道工場	北海道上川郡清水町	4,816
		茨城工場	茨城県土浦市	25,332
		三重工場	三重県伊賀市	23,097
		鹿児島工場	鹿児島県いちき串木野市	9,907
加工食品・惣菜の製造	秋田プリマ食品(株)	秋田県由利本荘市	4,580	
	プリマ食品(株)	埼玉県比企郡吉見町	4,906	
	プライムフーズ(株)	群馬県前橋市	3,395	
	四国フーズ(株)	香川県丸亀市	2,630	
	熊本プリマ(株)	熊本県菊池市	4,915	
	プリマルーケ(株)	長崎県雲仙市	1,209	
営業・事務部門(オフィス)	プリマハム(株)	品川本社	東京都品川区	—
		近畿センター	大阪府大阪市	—

エネルギー使用量、CO₂排出量、水使用量

箇所名	年度	購入電力量(千kwh)			燃料使用量(原油換算kℓ)			CO ₂ 排出量(トンCO ₂)			水使用量(千m ³)			
		2012	2013	2014	2012	2013	2014	2012	2013	2014		2012	2013	2014
北海道工場		5,186	4,981	5,034	667	639	592	4,255	5,096	4,960	上水道	19	22	29
											井戸水	173	168	155
茨城工場		22,245	20,918	20,055	3,164	2,333	2,168	18,455	17,197	16,400	上水道	30	34	33
											井戸水	509	537	547
三重工場		11,552	13,069	13,569	1,792	1,971	2,080	11,630	11,982	12,496	上水道	74	97	120
											井戸水	192	184	186
鹿児島工場		8,181	8,185	8,417	1,497	1,472	1,391	8,249	8,895	8,829	上水道	275	268	289
											井戸水	51	51	51
秋田プリマ食品(株)		4,439	4,320	4,555	768	804	783	4,430	4,714	4,762	上水道	82	83	82
プリマ食品(株)		6,999	7,182	6,797	1,904	1,780	1,621	6,928	7,212	6,737	上水道	128	120	119
プライムフーズ(株)		4,935	4,971	4,634	475	475	381	3,500	3,816	3,411	井戸水	169	149	109
四国フーズ(株)		2,582	2,619	2,516	390	437	392	2,441	2,981	2,787	上水道	30	20	22
											井戸水	3	15	13
熊本プリマ(株)		5,031	5,705	5,801	934	1,182	1,043	5,188	6,650	6,343	井戸水	115	143	128
プリマルーケ(株)		1,630	1,590	1,670	244	239	283	1,414	1,522	1,661	井戸水	60	69	63
品川本社		611	441	411	46	61	56	358	330	309	上水道	—	—	—
近畿センター		2,030	1,883	1,907	31	26	29	974	1,019	1,052	上水道	13	12	12

※—は当該項目対象外です

廃棄物関連

箇所名	年度	排出量(トン)			リサイクル率(%)		
		2012	2013	2014	2012	2013	2014
北海道工場		366	441	446	94.9	84.5	89.2
茨城工場		964	920	931	100	100	100
三重工場		1,606	1,662	1,816	100	100	100
鹿児島工場		1,672	1,907	1,914	95.6	95.9	94.7
秋田プリマ食品(株)		815	729	709	64.8	57.7	54.7
プリマ食品(株)		1,784	1,919	1,892	100	100	100
プライムフーズ(株)		345	630	802	75.8	77.4	100
四国フーズ(株)		652	909	898	54.2	53.3	28.5
熊本プリマ(株)		1,086	1,551	1,753	76.9	84.8	90.1
プリマルーケ(株)		147	174	261	100	100	86.7

排水の水質管理状況(2014年度)

箇所名	pH			BOD(mg/ℓ)		
	規制値	最大	最小	規制値※1	最大	最小
北海道工場	5.8~8.6	7.9	7.1	80	38	2.8
茨城工場	5.8~8.6	7.5	6.2	15	2.5	0.5未満
三重工場	5.8~8.6	7.7	7.0	25	4.7	0.5未満
鹿児島工場	5.8~8.6	7.8	7.6	30	18	4.9
秋田プリマ食品(株)	5.8~8.6	7.6	8.1	30	5.1	0.5未満
プリマ食品(株)	5.8~8.6	8.4	7.8	25	7.5	1.3
プライムフーズ(株) 本社工場	5.8~8.6	8.0	7.8	25	4	1.0未満
プライムフーズ(株) 力丸工場	5.8~8.6	8.0	7.6	25	6	1.0未満
四国フーズ(株)※2	5.0~9.0	6.6	5.7	600	17	1.0未満
熊本プリマ(株)	5.8~8.6	8.1	7.2	40	23	1
プリマルーケ(株)	5.8~8.6	7.5	7.1	160	4	4

※1 日間平均値 ※2 公共下水道の排出基準に準じて下水放流しています

大気汚染物質の管理状況(2014年度)

箇所名	設備	ばいじん量(g/Nm ³)		SOx(Nm ³ /h)		NOx(ppm)	
		規制値	実測最大値	規制値	実測最大値	規制値	実測最大値
北海道工場	ボイラー	0.3	0.01未満	3.9	0.06	180	120
茨城工場	ボイラー	0.3	0.005	4.59	0.055	180	82
	発電機	0.1	0.021	2.48	0.025	950	560
三重工場	ボイラー	—	—	—	—	—	—
	発電機	0.1	0.004	0.18	0.095	950	710
鹿児島工場	ボイラー	0.3	0.016	5.06	0.2	—	—
	発電機	0.1	0.058	1.09	0.07	950	712
秋田プリマ食品(株)	ボイラー	0.3	0.01未満	17	0.28	180	120
プリマ食品(株)	ボイラー	—	—	—	—	—	—
プライムフーズ(株) 本社工場	ボイラー	—	—	—	—	—	—
プライムフーズ(株) カ丸工場	ボイラー	—	—	—	—	—	—
四国フーズ(株)	ボイラー	—	—	0.74	0.14	—	—
熊本プリマ(株)	ボイラー	—	—	0.53	0.27	—	—
	発電機	0.1	0.07	2.6	0.21	950	510
プリマルーケ(株)	ボイラー	—	—	—	—	—	—

* ーは当該項目対象外です

プリマハムグループは、さまざまな場面で健康で豊かな食生活を支えています



加工食品の製造・販売

おなじみのコンシューマーパック商品から業務用商品まで、お客さま・お取引先様のニーズに対応した商品を生産しています。

量販店、コンビニエンスストア、精肉店などで販売されています。また、オンラインショップでも当社商品の購入が可能です。



連結グループ会社

加工食品の製造事業

- 秋田プリマ食品(株)
- プライムフーズ(株)
- プリマ食品(株)
- 四国フーズ(株)
- プリマルーケ(株)
- 熊本プリマ(株)
- プリマ環境サービス(株)
- PRIMAHAM (THAILAND) CO.,LTD.(タイ)
- 山東美好食品有限公司(中国)
- PRIMAHAM FOODS (THAILAND) CO.,LTD.(タイ)
- 康普(蘇州)食品有限公司(中国)

コンビニエンスストア向けベンダー事業

- プライムデリカ(株)
- Prime Deli Corp.(米国)
- (株)プライムベーカリー

食肉、加工食品の販売事業

- 北海道プリマハム(株)
- 北陸プリマハム(株)
- 佐賀プリマ販売(株)

精肉・惣菜・加工食品等の小売事業

- プリマハム近畿販売(株)
- (株)エッセンハウス
- 東栄フーズ(株)



コンビニエンスストア向け商品の製造・販売

調理パン、スイーツ、サラダ、軽食、惣菜など、さまざまな商品を、新鮮な状態でお届けしています。





食肉および 加工肉の製造・販売

海外サプライヤーと協力して安全で高品質なオリジナルブランドミートをお届けしています。



ナショナルビーフ社の登録商標です。



フレッシュミートをカットした規格肉や味つけ肉・衣つけ肉などを生産、販売しています。



養豚関連事業

関連会社牧場および国内協力牧場を通じて安全・安心で高品質の種豚・肉豚を生産しています。



連結グループ会社

養豚関連事業

- 太平洋ブリーディング(株)
- Swine Genetics International, Ltd.(米国)
- (有)かみふらの牧場
- (有)肉質研究牧場

食肉の加工事業

- (株)かみふらの工房
- 茨城ベストパッカー(株)
- 西日本ベストパッカー(株)

食肉の物流事業

- プリマロジスティックス(株)

食肉の販売事業

- 関東プリマミート販売(株)
- 関西プリマミート販売(株)



総合人材サービス

人材の教育、開発、派遣や保険などのトータルサポート

情報システム

システム開発、管理、運営、情報セキュリティの確保、維持

研究・技術開発

食品の検査・安全性の確保と検査キットなどの販売

マイクロマンipレーション関連機器の開発、製造・販売など

連結グループ会社

- プリマ・マネジメント・サービス(株)
- プリマシステム開発(株)
- (株)つくば食品評価センター
- プライムテック(株)

■ 連結子会社 ○ 持分法適用会社